

# BladeSymphony BS320

## セットアップガイド

### ～ 基本構成編 ～

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

## 登録商標・商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Xeon は Intel Corporation の登録商標および商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標または商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

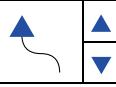
## 発行

2013年3月（第9版）

## 版権

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi,Ltd.2011-2013,All rights reserved.



# お知らせ

## 重要なお知らせ

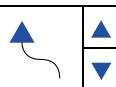
- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがあればお問い合わせください。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- この製品には、RSA Data Security からライセンスを受けたコードが含まれています。

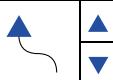
## 規制・対策などについて

### 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。

なお、この装置に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。





# はじめに

はじめに

このたびは BladeSymphony BS320 システム装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
このマニュアルは、コンソール端末にリモートコンソール用アプリケーションのセットアップ手順および、リモート操作について記載しています。

## マニュアルの表記

### マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

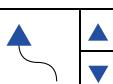
マーク	意味
 <b>警告</b>	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 <b>注意</b>	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 <b>通知</b>	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損傷を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 <b>制限</b>	人身の安全や装置の重大な損害と直接関係しない注意書きを示します。
 <b>補足</b>	装置を活用するためのアドバイスを示します。

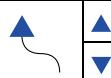
### オペレーティングシステム (OS) の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

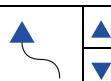
また、Service Pack については記載していません。

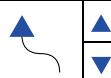
- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版  
(以下 Windows Server 2012 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版  
(以下 Windows Server 2012 Datacenter)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 R2 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter)





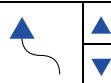
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Enterprise)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Datacenter)
  
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Standard without Hyper-V)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V™ 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V)
  
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Standard 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Enterprise 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Datacenter 32-bit)
  
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 32-bit 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 32-bit 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V™ 32-bit 日本語版  
(以下 Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32-bit)
  
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition)
  
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2, Standard Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition)
  
- Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003, Standard x64 Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition)
  
- Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003, Standard Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003, Enterprise Edition)

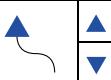




なお次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2012	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2012 Standard</li> <li>■ Windows Server 2012 Datacenter</li> </ul>
Windows Server 2008 R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2008 R2 Standard</li> <li>■ Windows Server 2008 R2 Enterprise</li> <li>■ Windows Server 2008 R2 Datacenter</li> </ul>
Windows Server 2008	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2008 Standard</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter</li> <li>■ Windows Server 2008 Standard without Hyper-V</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V</li> <li>■ Windows Server 2008 Standard 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32-bit</li> </ul>
Windows Server 2008 64bit 版	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2008 Standard</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter</li> <li>■ Windows Server 2008 Standard without Hyper-V</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V</li> </ul>
Windows Server 2008 32bit 版	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2008 Standard 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit</li> <li>■ Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32-bit</li> </ul>
Windows Server 2003 R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition</li> <li>■ Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition</li> <li>■ Windows Server 2003 R2, Standard Edition</li> <li>■ Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition</li> </ul>
Windows Server 2003 R2 (x64)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition</li> <li>■ Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition</li> </ul>
Windows Server 2003 R2 (32 ビット)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2003 R2, Standard Edition</li> <li>■ Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition</li> </ul>
Windows Server 2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2003, Standard x64 Edition</li> <li>■ Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition</li> <li>■ Windows Server 2003, Standard Edition</li> <li>■ Windows Server 2003, Enterprise Edition</li> </ul>
Windows Server 2003 (x64)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2003, Standard x64 Edition</li> <li>■ Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition</li> </ul>
Windows Server 2003 (32 ビット)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Server 2003, Standard Edition</li> <li>■ Windows Server 2003, Enterprise Edition</li> </ul>





# 安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす隠れた危険に注意を喚起するために用いられます。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルの後に続く安全に関するメッセージに従ってください。



これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。



これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。



これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。



## 【表記例 1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



## 【表記例 2】分解禁止

○の図記号は禁止事項を示し、○の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。なお、○の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



## 【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、●は一般的に行っていただきたい事項を示します。

## 安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアルも参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

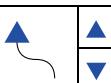
## 操作や動作は

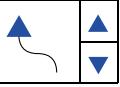
マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

## 自分自身でもご注意を

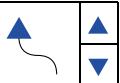
本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。





目次

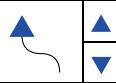
安全にお使いいただくために



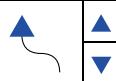
目次

# 目次

お知らせ .....	iii
重要なお知らせ .....	iii
規制・対策などについて .....	iii
はじめに .....	iv
マニュアルの表記 .....	iv
安全にお使いいただくために .....	vii
目次 .....	ix
<b>1 セットアップを始める前に .....</b>	<b>1</b>
1.1 セットアップの概要 .....	2
1.2 セットアップの対象範囲 .....	3
1.3 セットアップの準備 .....	4
<b>2 コンソール端末のセットアップ .....</b>	<b>7</b>
2.1 ネットワーク設定 .....	8
2.2 リモートコンソールアプリケーションのインストール .....	9
2.3 システム装置との接続 .....	12
<b>3 サーバブレードの基本操作 .....</b>	<b>13</b>
3.1 リモートコンソールとは .....	14
3.2 リモート操作の開始と終了 .....	16
3.2.1 リモートコンソールアプリケーションの起動 .....	16
3.2.2 リモートコンソールのログイン .....	17
3.2.3 リモートコンソールの終了 .....	21
3.3 サーバブレードの電源を入れる .....	23
3.4 CD/DVD ドライブの利用 .....	28
3.5 操作対象のサーバブレードの切り替え .....	34
<b>4 マネジメントモジュールの基本操作 .....</b>	<b>37</b>
4.1 ログイン .....	38
4.2 ログアウト .....	40
4.3 サーバブレードの状態確認 .....	41



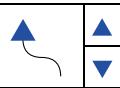
付録	.....	45
付録 A	リモートコンソール注意事項	46
付録 B	リモートコンソールツールバー	48
付録 C	ショートカットキー	52
付録 D	カスタマイズ	53

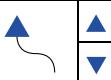


# 1 セットアップを始める前に

この章では、リモートコンソールアプリケーションのセットアップ前に理解してもらいたい内容について説明します。

- 1.1 セットアップの概要
- 1.2 セットアップの対象範囲
- 1.3 セットアップの準備





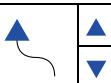
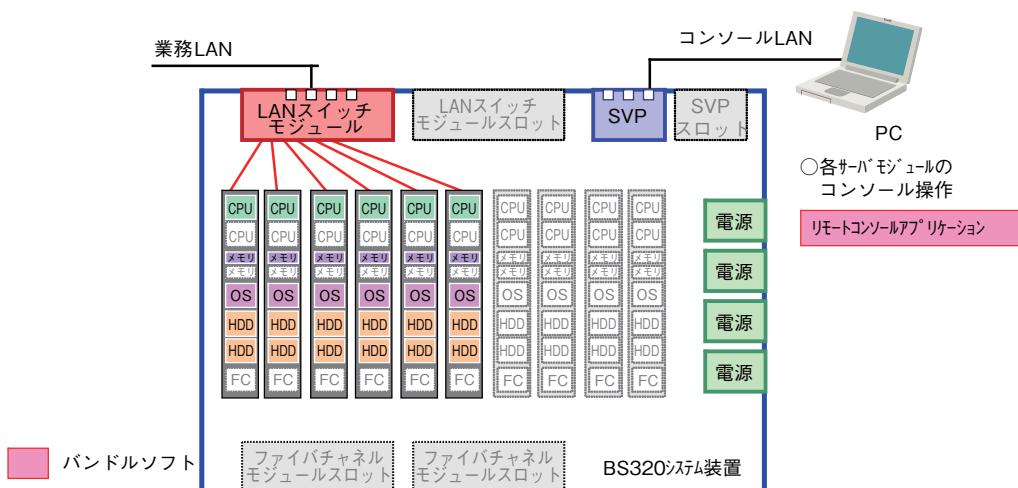
## 1.1 セットアップの概要

システム装置の導入後、簡単なセットアップのみでサーバブレードを利用したい場合のセットアップ手順について説明します。

お客様のPCまたはサーバ(以降「コンソール端末」と呼びます)にリモートコンソールアプリケーションのセットアップを行い、システム装置とLANケーブルで直接接続することにより、コンソール端末から各サーバブレードの電源操作、BIOSの設定、OSやアプリケーション、修正モジュールなどのインストールを離れた場所から実行することができます。

なお、リモートコンソールの詳細な操作方法や注意事項については、システム装置添付のリモートコンソールアプリケーションCDに格納されている『BS320用リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。

### (1) システム構成例



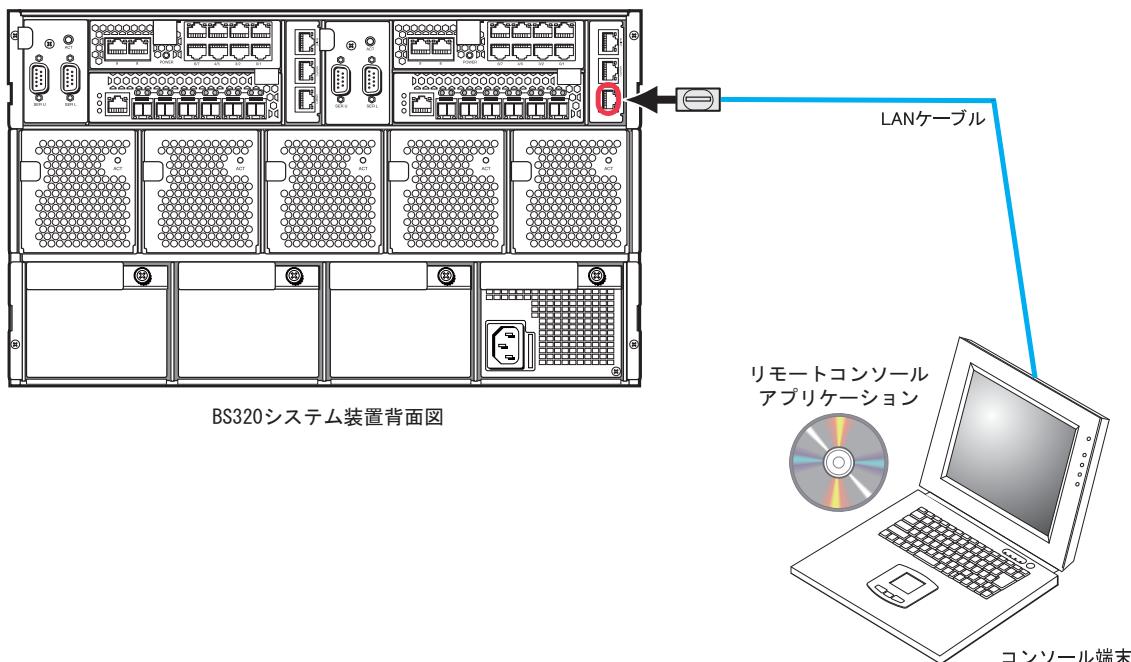
## 1.2 セットアップの対象範囲

次の構成を前提にリモートコンソールアプリケーションのセットアップ手順を説明します。

その他の構成におけるセットアップ手順については、各製品マニュアルを参照してください。

1. BS320 サーバシャーシ 1 台の新規導入
2. サーバブレードの OS は Windows Server 2008 R2 を使用

### (1) BS320 システム接続図



## 1.3 セットアップの準備

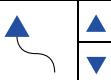
### (1) コンソール端末(リモートコンソール用)1台

次の動作条件を満たすコンソール端末をご準備ください。

項目	動作条件
OS	Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise Windows Server 2008 Standard 32bit Windows Server 2008 Enterprise 32bit Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32bit Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32bit Windows Server 2003 R2, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows 8 64bit Windows 8 Professional 64bit Windows 8 32bit Windows 8 Professional 32bit Windows 7 Professional 64bit Windows 7 Professional 32bit Windows Vista Business Windows XP Professional Windows XP Home
CPU	動作クロック 1GHz 以上
メモリ	512MB 以上
表示解像度	1,024 x 768 ドット以上
LAN	100Base-TX 以上
CD-ROM/DVD-ROM ドライブ	コンソール端末内蔵の CD-ROM/DVD-ROM ドライブ または、USB 接続の CD-ROM/DVD-ROM ドライブ ※ コンソール端末に USB 接続した CD-ROM/DVD-ROM ドライブを使用する場合は、USB2.0 準拠のドライブを推奨します。
Java VM (x6 モデル以降は必須)	ORACLE Java Runtime Environment バージョン 6 以上 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 64bit 版は非サポートです。64bit 版 OS をご使用の場合でも 32bit 版を使用してください。</li> <li>■ ORACLE Java Runtime Environment(JRE) バージョン 7 を使用する場合は Update 2 以降を使用してください。</li> </ul>

#### 補足

リモートコンソールを快適にお使いいただくために、コンソール端末には 512MB 以上のメモリを搭載することをおすすめします。



## (2) LAN ケーブル 1 本

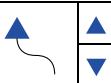
カテゴリ 5 以上の規格に対応した LAN ケーブルをご準備ください。

ケーブルの種類は、ストレートケーブル／クロスケーブルどちらでも使用できます。

## (3) リモートコンソールアプリケーション CD

BS320 サーバブレードに付属されます。

リモートコンソールアプリケーション CD は、お買い上げいただいたサーバブレードに付属のものをご使用ください。

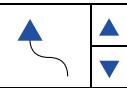




# 2 コンソール端末のセットアップ

この章では、コンソール端末のセットアップについて説明します。

- 2.1 ネットワーク設定
- 2.2 リモートコンソールアプリケーションのインストール
- 2.3 システム装置との接続



## 2.1 ネットワーク設定

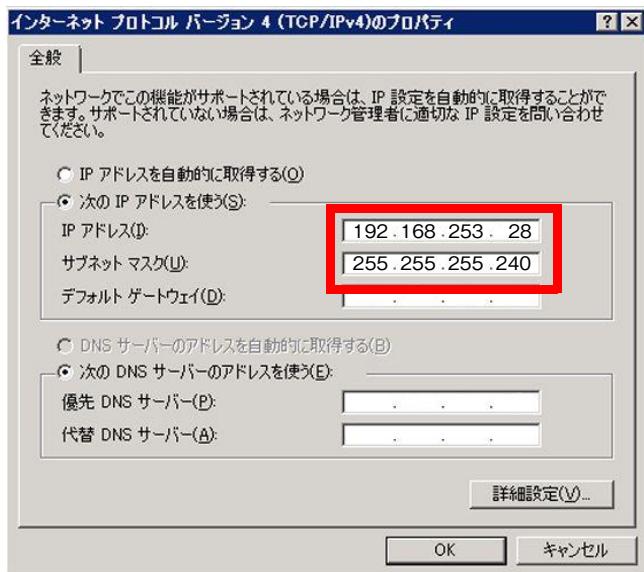
コンソール端末に IP アドレス、サブネットマスクを設定します。

設定画面を表示する方法は、それぞれの OS のマニュアルを参照してください。

<PC のネットワーク設定値>

IP アドレス	次のいずれかの IP アドレスを設定してください 192.168.253.28 192.168.253.29 192.168.253.30
サブネットマスク	255.255.255.240

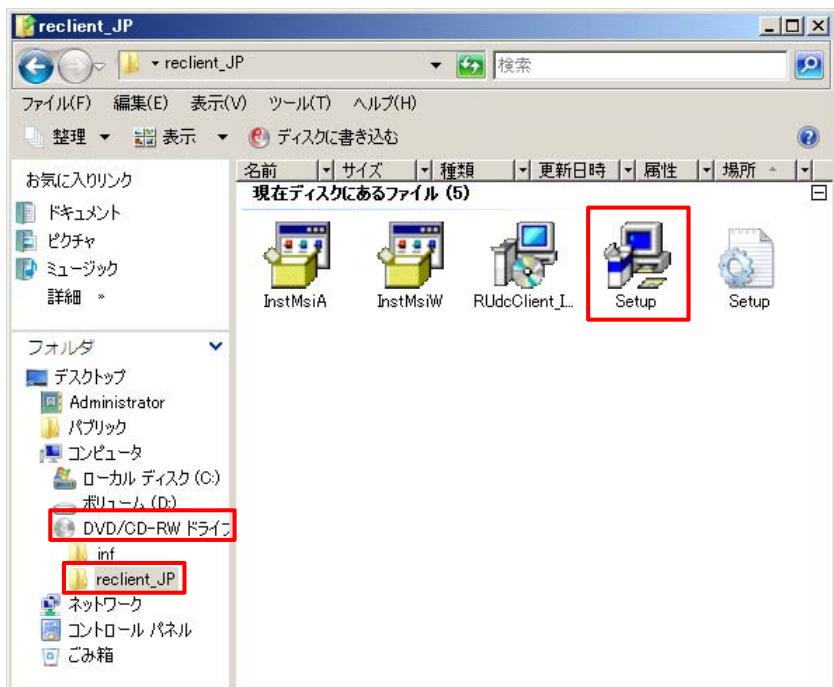
<設定画面>



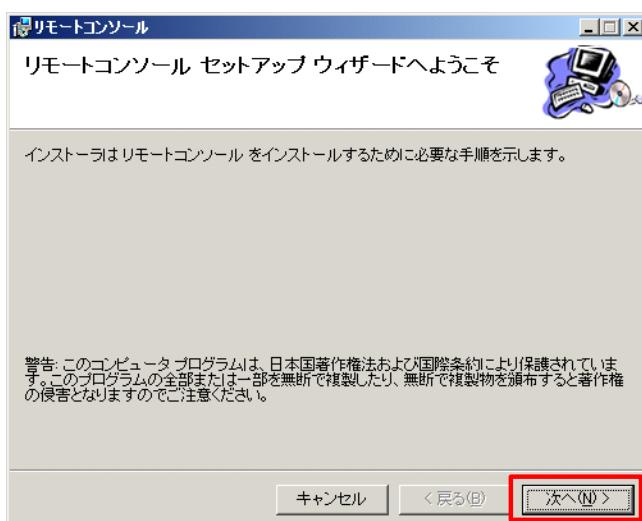
## 2.2 リモートコンソールアプリケーションのインストール

コンソール端末にリモートコンソールアプリケーションをインストールします。

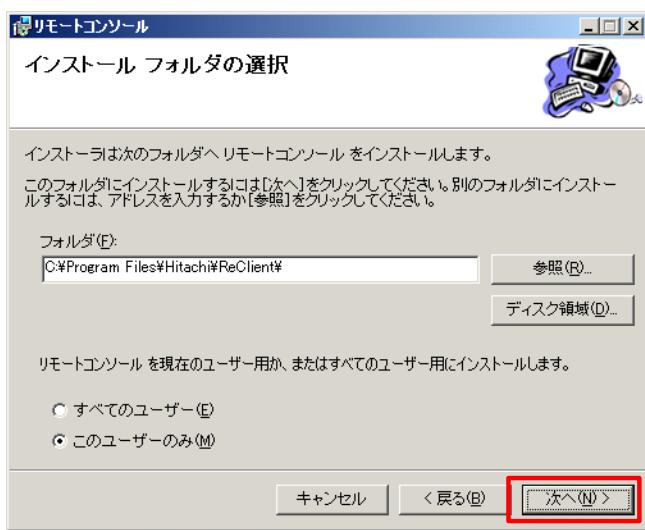
- 1 コンソール端末のCD ドライブに「リモートコンソールアプリケーションCD」を入れます。
- 2 CD 内の ¥reclient\_JP フォルダを開き「Setup.Exe」をダブルクリックしてインストーラを起動します。



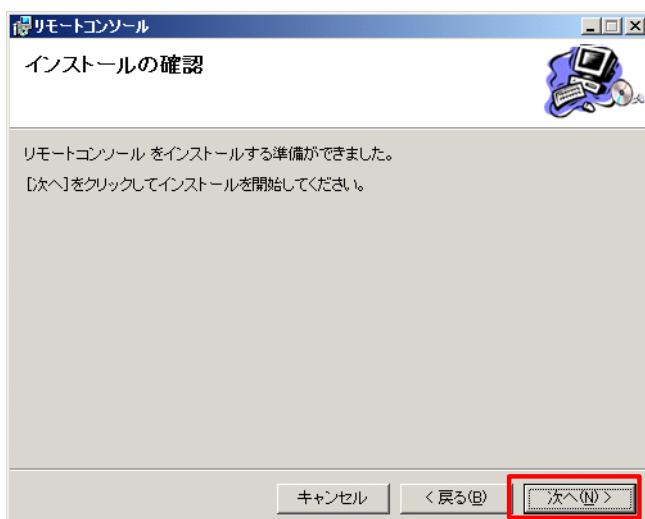
- 3 [リモートコンソール セットアップ ウィザードへようこそ] 画面が表示されます。  
[次へ (N) >] をクリックします。

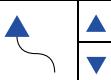


- 4 [インストール フォルダの選択] 画面が表示されます。  
デフォルト設定のまま、[次へ (N) >] をクリックします。

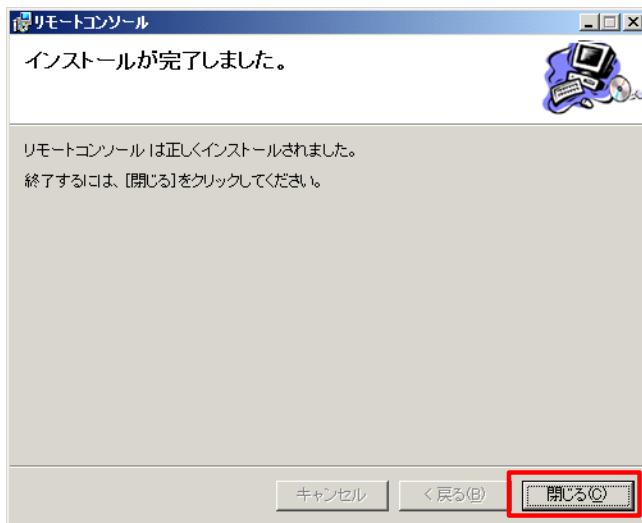


- 5 [インストールの確認] 画面が表示されます。  
[次へ (N) >] をクリックするとインストールが開始されます。





- 6 しばらくすると、[インストールが完了しました。] 画面が表示されます。  
[閉じる (C)] をクリックしてインストーラを終了してください。  
また、コンソール端末から CD を取り出します。

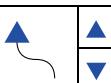


- 7 コンソール端末のデスクトップに「リモートコンソール」、「FDDUMP」および「MakeCDImg」のショートカットアイコンが表示されます。

<アイコンの説明>

ショートカット アイコン	アイコンの名称	説明
	リモートコンソール	リモートコンソール アプリケーションの本体です。
	FDDUMP	リモート FD 機能を使用する場合に必要です。詳細は『BS320 用 リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド』を参照してください。
	MakeCDImg	リモート CD/DVD 機能でコンソール端末の CD/DVD のイメージを使用するに当たり、事前に CD/DVD の内容をイメージ化するための機能です。詳細は『BS320 用 リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド』を参照してください。

- 8 以上で、リモートコンソール アプリケーションのインストールが完了しました。

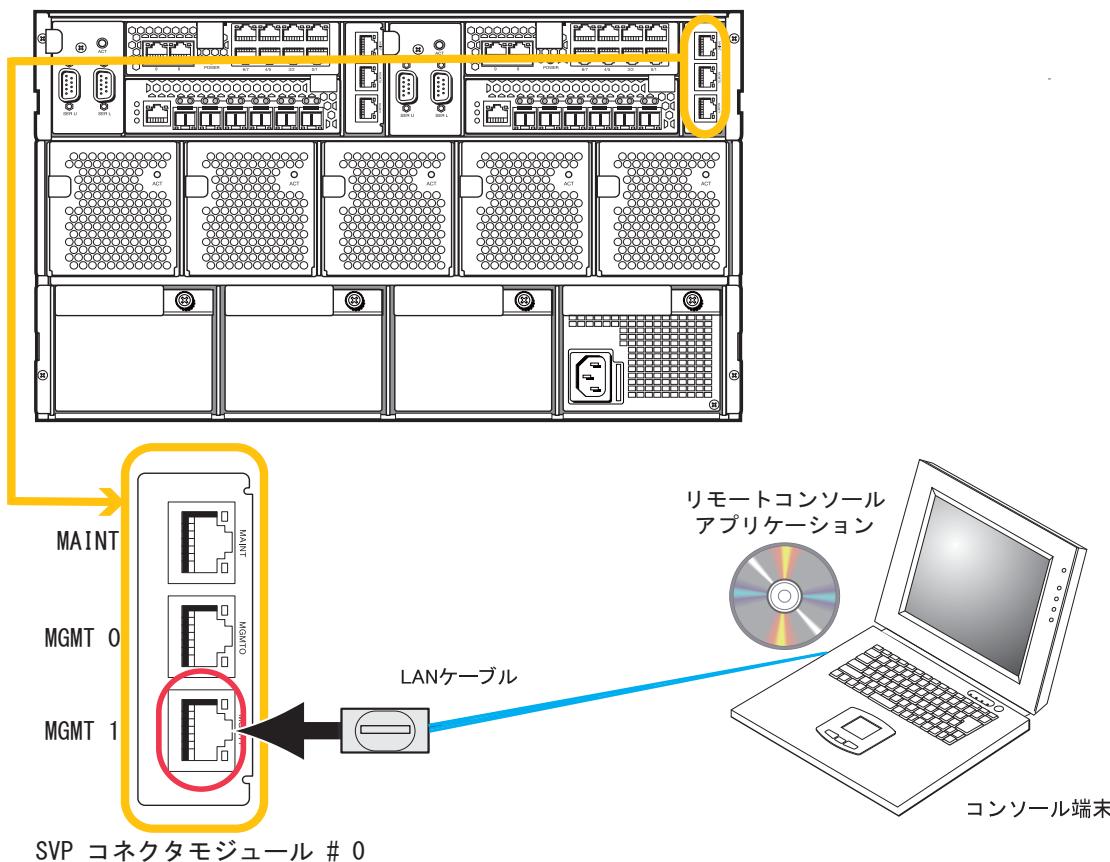


## 2.3 システム装置との接続

システム装置とコンソール端末を LAN ケーブルで接続します。

システム装置側は、SVP コネクタモジュール #0 「MGMT1」 ポートに接続してください。

BS320システム装置背面図



### 補足

マネジメントモジュールが2台搭載されている場合は、現用（プライマリ）側のマネジメントモジュールのSVPコネクタモジュールに接続してください。現用（プライマリ）側とは、SVPコネクタモジュール #0（上図赤枠）になります（2台のマネジメントモジュールが正常に稼働している場合）。詳細は『設定ガイドマネジメントモジュール編』を参照してください。

# 3 サーバブレードの基本操作

---

この章では、サーバブレードの基本操作について説明します。

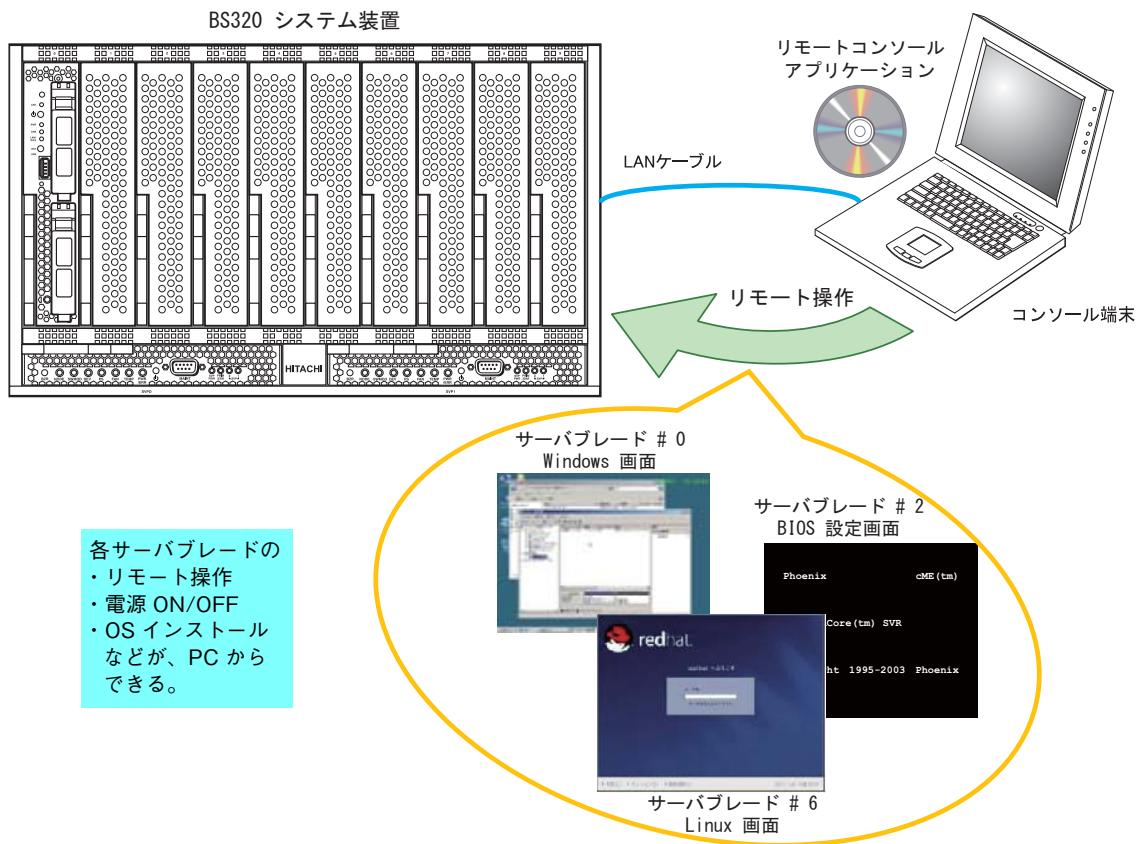
- 3.1 リモートコンソールとは
- 3.2 リモート操作の開始と終了
- 3.3 サーバブレードの電源を入れる
- 3.4 CD/DVD ドライブの利用
- 3.5 操作対象のサーバブレードの切り替え

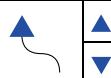
## 3.1 リモートコンソールとは

### (1) リモートコンソール

システム装置では、サーバブレードのコンソールとして「リモートコンソール」を使用します。

リモートコンソールは、コンソール端末にリモートコンソールアプリケーションをインストールするだけで、コンソール端末から各サーバブレードのリモート操作（キーボード / マウス操作、電源 ON/OFF、OS インストールなど）ができます。





## (2) 主な機能

### 操作機能

- コンソール端末から各サーバブレードのリモート操作（キーボード、マウス操作）ができます。
- コンソール端末から各サーバブレードの BIOS 設定や、OS ハングアップ時の画面を確認できます。

### 仮想デバイス機能

- リモート CD/DVD 機能：コンソール端末側の CD-ROM ドライブ /DVD-ROM ドライブを、あたかもサーバブレードに接続されたドライブのように使用できます。
- リモート FD 機能：コンソール端末側で FD イメージファイルを作成し、サーバブレードに転送します。この FD イメージファイルは、サーバブレードの FD として認識されます。
- 上記機能を用いることで、コンソール端末側の CD/DVD ドライブや FD ドライブから各サーバブレードの OS やアプリケーション、パッチなどをインストールできます。

### 電源操作機能

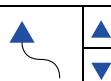
- コンソール端末から各サーバブレードの電源 ON/OFF ができます。

### 画質設定機能

- ネットワーク帯域に応じて、画質を変更できます。

### 専用ビューア

- リモートコンソール専用ビューア（システム装置に付属のリモートコンソールアプリケーション）により、快適なレスポンスが確保できます。

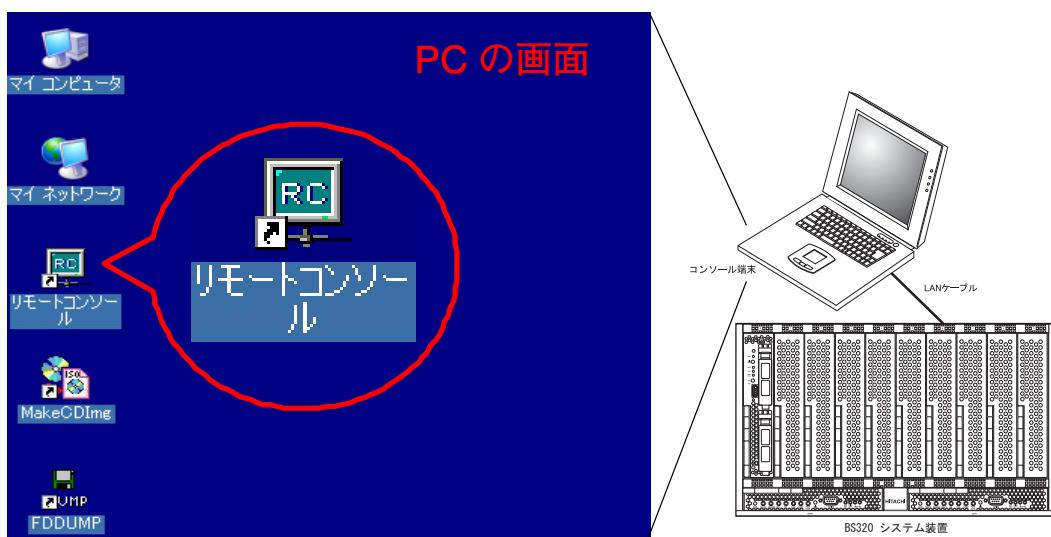


## 3.2 リモート操作の開始と終了

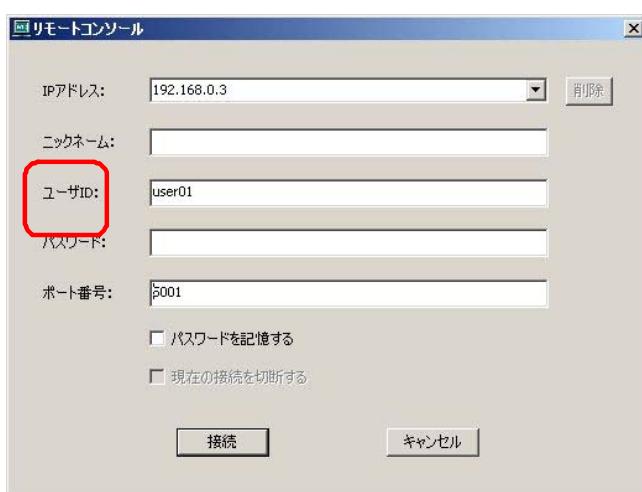
### 3.2.1 リモートコンソールアプリケーションの起動

- 1 「2.2 リモートコンソールアプリケーションのインストール」 P.9 にてコンソール端末にインストールした、リモートコンソール アプリケーションのショートカットアイコンをダブルクリックします。

<コンソール端末のデスクトップ画面>



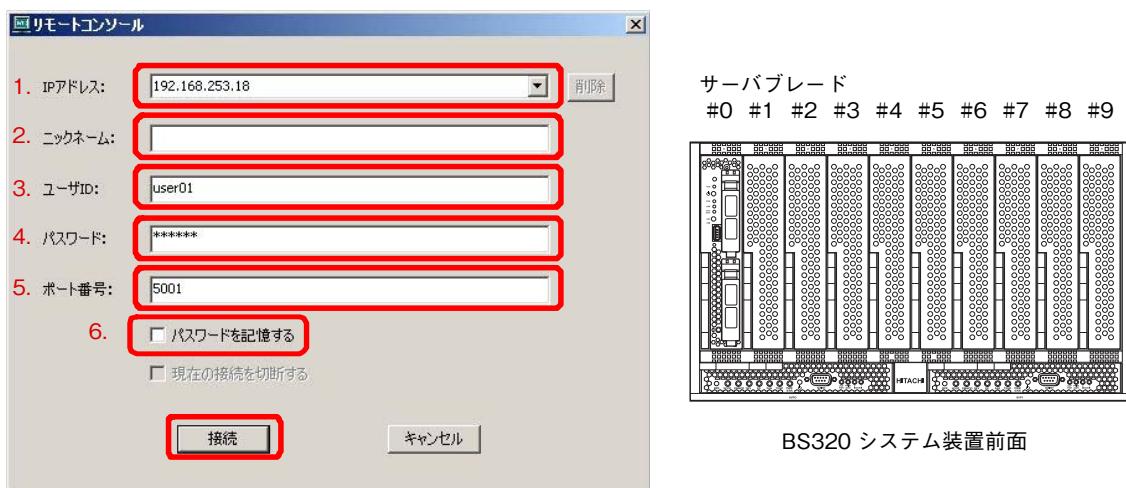
- 2 リモートコンソールのログイン画面が表示されます。



## 3.2.2 リモートコンソールのログイン

### (1) x6 モデルの場合

- 1 リモート操作するサーバブレードのログイン情報を入力し、[接続] をクリックします。



<リモートコンソールのログイン情報>

リモートコンソール接続先 サーバブレード	1. IP アドレス (変更不可)	2. ニックネーム (任意)	3. ユーザ ID (工場出荷時)	4. パスワード (工場出荷時)	5. ポート番号 (工場出荷時)
サーバブレード #0	192.168.253.18	サーバブレード #0	user01	pass01	5001
サーバブレード #1	192.168.253.19	サーバブレード #1	user01	pass01	5001
サーバブレード #2	192.168.253.20	サーバブレード #2	user01	pass01	5001
サーバブレード #3	192.168.253.21	サーバブレード #3	user01	pass01	5001
サーバブレード #4	192.168.253.22	サーバブレード #4	user01	pass01	5001
サーバブレード #5	192.168.253.23	サーバブレード #5	user01	pass01	5001
サーバブレード #6	192.168.253.24	サーバブレード #6	user01	pass01	5001
サーバブレード #7	192.168.253.25	サーバブレード #7	user01	pass01	5001
サーバブレード #8	192.168.253.26	サーバブレード #8	user01	pass01	5001
サーバブレード #9	192.168.253.27	サーバブレード #9	user01	pass01	5001

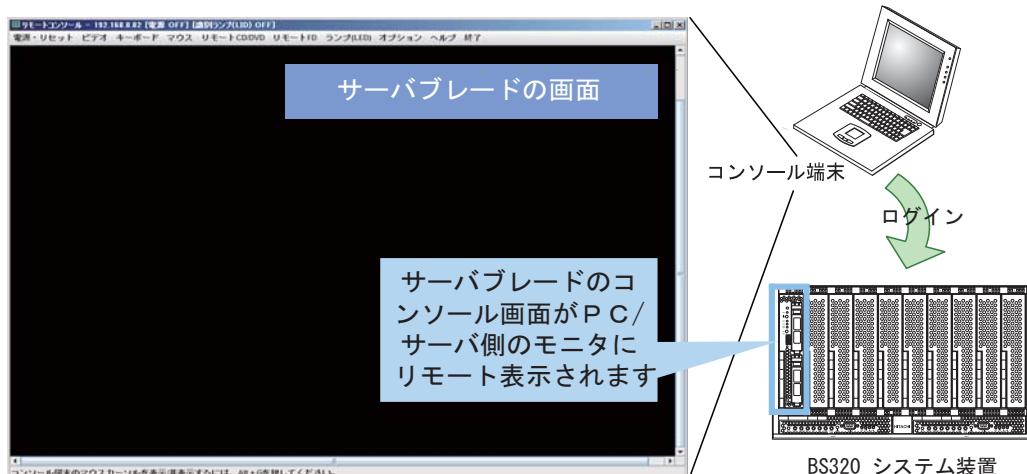
上記 1. 3. 4. 5. 欄は入力必須です。

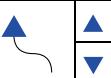
2. はサーバブレードに設定するニックネームであり、ユーザが任意に設定できます。ニックネームを設定することで、リモート操作するサーバブレードの判別が容易になります。

## 補足

- 1. [IP アドレス] は、変更できません。この IP アドレスは、システム装置内部で使用する IP アドレスであり、ユーザ LAN (業務 LAN) とは未接続のネットワークを使用します。
- 1. [IP アドレス] 欄の右端にある [▼] をクリックすると、一度リモートコンソールのログインに成功したサーバブレードのニックネーム (ニックネームを設定した場合)、IP アドレス一覧が表示されます。この一覧からリモート操作するサーバブレードを選択することで、前回のログイン情報が自動表示されます。
- 3. [ユーザ ID]、4. [パスワード] は、サーバブレード毎に追加・変更できます。これらの設定は、システム装置のマネジメントモジュール (SVP) にて行います。詳細は『設定ガイド マネジメントモジュール編』を参照してください。
- 6. [パスワードを記憶する] にチェック「レ」をつけた場合は、リモートコンソールアプリケーションがパスワードを記憶します。同一 IP アドレスへの次回接続時に、パスワード入力を省略できます。

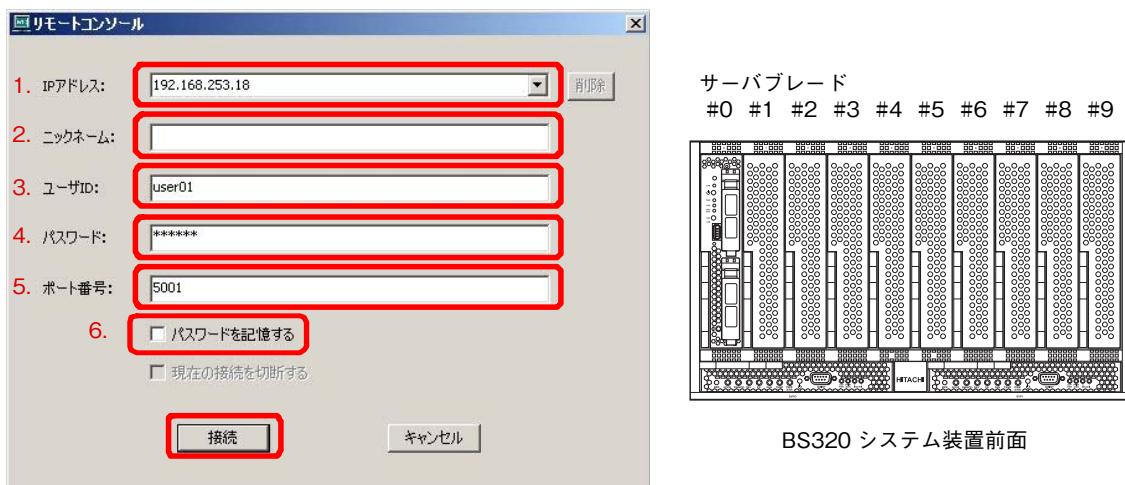
- 2 リモートコンソールのログインに成功すると、サーバブレードのコンソール画面がコンソール端末のモニタに、リモート表示されます。





## (2) x5 モデル以前の場合

1 リモート操作するサーバブレードのログイン情報を入力し、[接続] をクリックします。



<リモートコンソールのログイン情報>

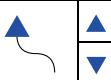
リモートコンソール接続先 サーバブレード	1. IP アドレス (変更不可)	2. ニックネーム (任意)	3. ユーザ ID (工場出荷時)	4. パスワード (工場出荷時)	5. ポート番号 (工場出荷時)
サーバブレード #0	192.168.253.18	サーバブレード #0	user01	pass01	5001
サーバブレード #1	192.168.253.19	サーバブレード #1	user01	pass01	5001
サーバブレード #2	192.168.253.20	サーバブレード #2	user01	pass01	5001
サーバブレード #3	192.168.253.21	サーバブレード #3	user01	pass01	5001
サーバブレード #4	192.168.253.22	サーバブレード #4	user01	pass01	5001
サーバブレード #5	192.168.253.23	サーバブレード #5	user01	pass01	5001
サーバブレード #6	192.168.253.24	サーバブレード #6	user01	pass01	5001
サーバブレード #7	192.168.253.25	サーバブレード #7	user01	pass01	5001
サーバブレード #8	192.168.253.26	サーバブレード #8	user01	pass01	5001
サーバブレード #9	192.168.253.27	サーバブレード #9	user01	pass01	5001

上記 1. 3. 4. 5. 欄は入力必須です。

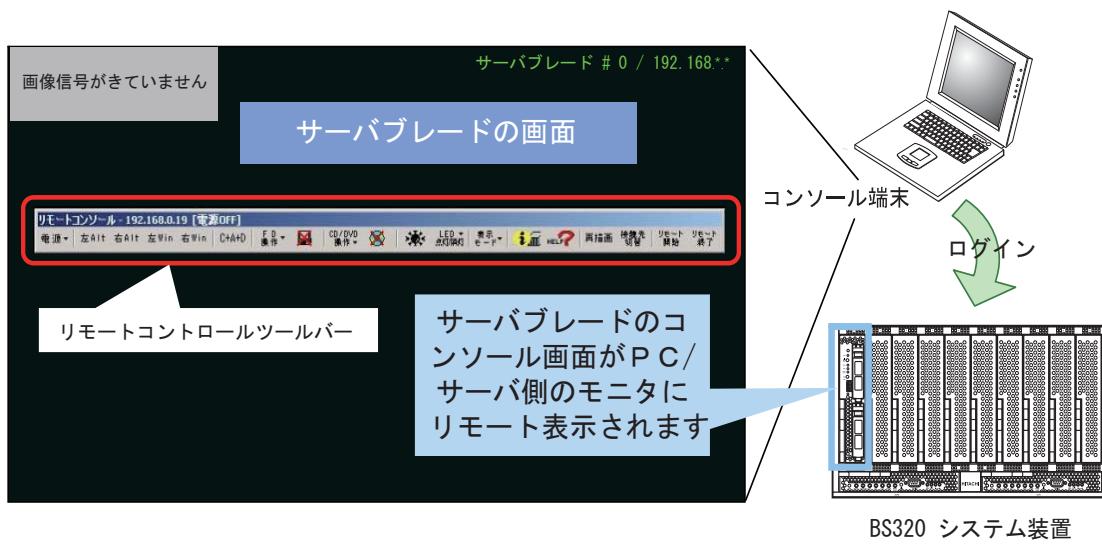
2. はサーバブレードに設定するニックネームであり、ユーザが任意に設定できます。ニックネームを設定することで、リモート操作するサーバブレードの判別が容易になります。

### 補足

- 1. [IP アドレス] は、変更できません。この IP アドレスは、システム装置内部で使用する IP アドレスであり、ユーザ LAN (業務 LAN) とは未接続のネットワークを使用します。
- 1. [IP アドレス] 欄の右端にある [▼] をクリックすると、一度リモートコンソールのログインに成功したサーバブレードのニックネーム (ニックネームを設定した場合)、IP アドレス一覧が表示されます。この一覧からリモート操作するサーバブレードを選択することで、前回のログイン情報が自動表示されます。
- 3. [ユーザ ID]、4. [パスワード] は、サーバブレード毎に追加・変更できます。これらの設定は、システム装置のマネジメントモジュール (SVP) にて行います。詳細は『設定ガイド マネジメントモジュール編』を参照してください。
- 6. [パスワードを記憶する] にチェック「レ」をつけた場合は、リモートコンソールアプリケーションがパスワードを記憶します。同一 IP アドレスへの次回接続時に、パスワード入力を省略できます。



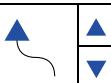
- 2 リモートコンソールのログインに成功すると、サーバブレードのコンソール画面がコンソール端末のモニタにリモート表示されます。  
[ Alt ] + [ G ] キーを同時に押すと、リモートコンソール ツールバーが表示されます。

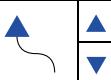


BS320 システム装置

### 補足

- サーバブレードの電源が OFF であるため、リモート表示されたコンソール画面は、上図のように（左上に「画像信号がきいていません」）表示されますが、リモートコンソールのログインは成功しています。
- リモートコンソールツールバーが表示されている状態では、コンソール端末のモニタには、サーバブレード側のコンソール画面をリモート表示していますが、キーボード／マウスはコンソール端末側の操作となります。
- コンソール画面の右上には、ログイン中のサーバブレードのニックネーム（ニックネームを設定している場合）、および IP アドレスが表示されます。  
(10 秒 (デフォルト値) で表示は消えます)

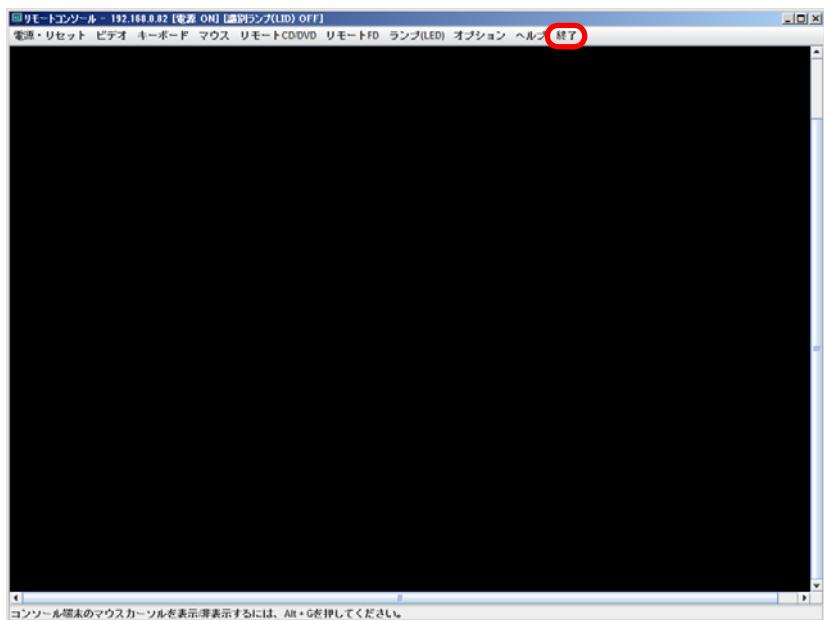




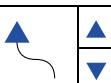
### 3.2.3 リモートコンソールの終了

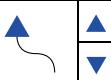
#### (1) x6 モデルの場合

- 1 リモートコンソールを終了するには、メニューの「終了」 – 「終了」をクリックしてください。



- 2 リモートコンソールが切断（ログオフ）され、コンソール端末のデスクトップ画面に戻ります。





## (2) x5 モデル以前の場合

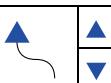
- 1 リモートコンソールを終了するには、ツールバーの【リモート終了】をクリックします。



- 2 リモートコンソールが切断（ログオフ）され、コンソール端末のデスクトップ画面に戻ります。

### 補足

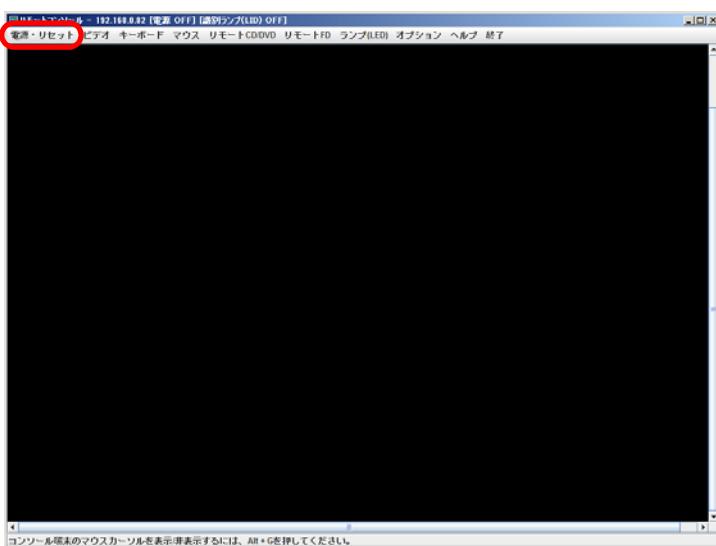
複数のサーバブレードのリモートコンソールに同時ログインしている場合は、各サーバブレードのリモートコンソールを切断（ログオフ）してください。



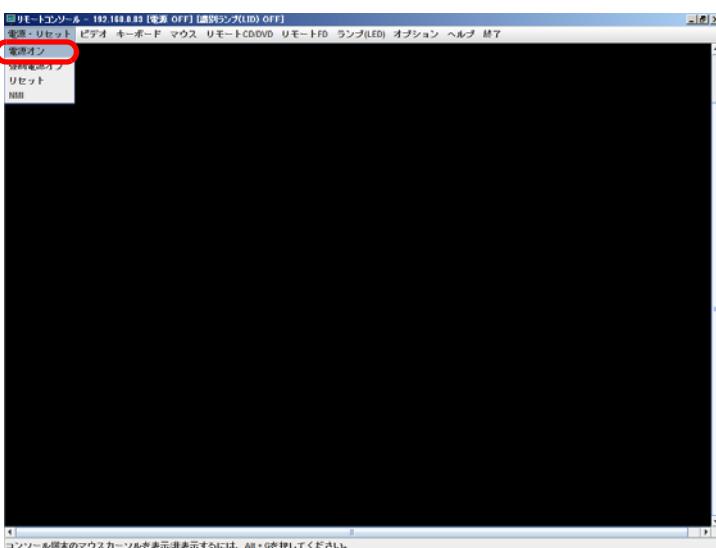
## 3.3 サーバブレードの電源を入れる

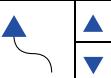
### (1) x6 モデルの場合

- 1 サーバブレードの電源を ON します。  
メニューの「電源・リセット」をクリックします。

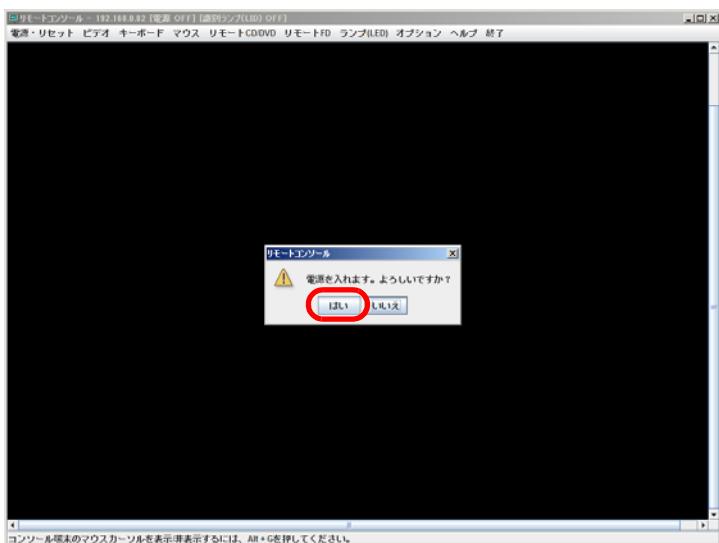


- 2 「電源オン」をクリックします。

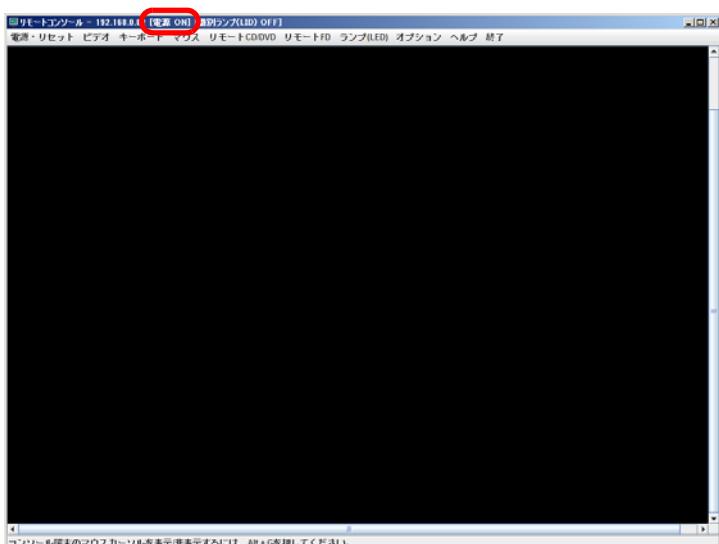




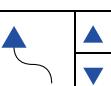
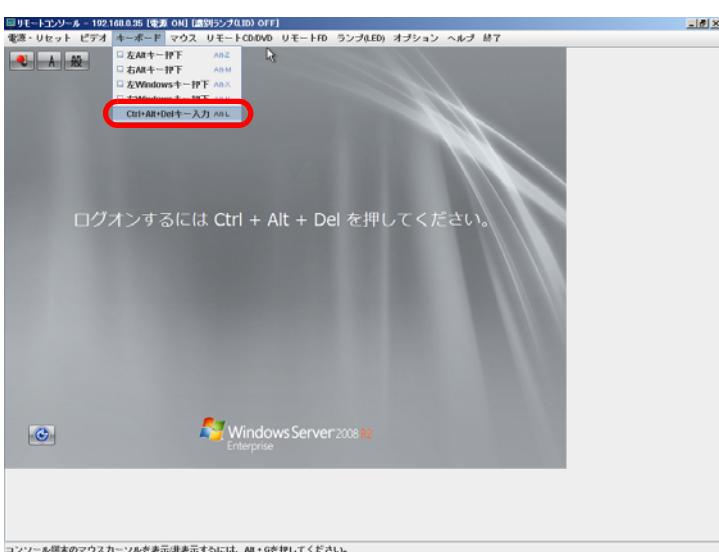
### 3 「はい」をクリックします。



### 4 リモートコンソールツールバーのタイトル表記が [ 電源 OFF ] から [ 電源 ON ] に変わり、サーバブレードが起動したことを確認できます。

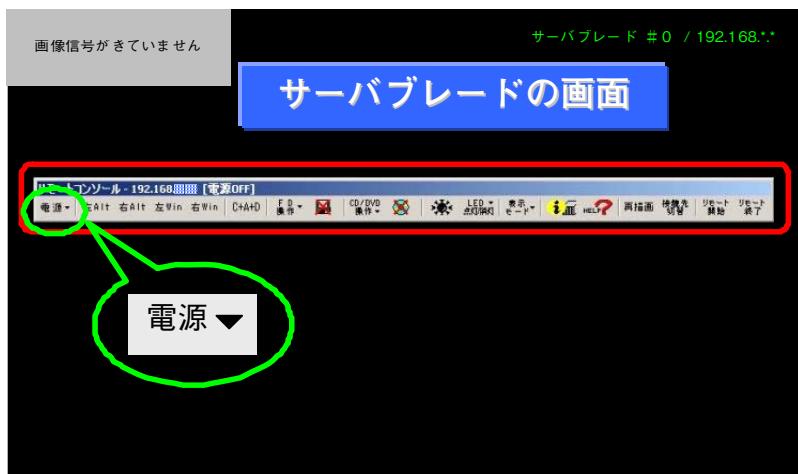


### 5 Windows のセットアップ後、次の画面になりましたら、メニューの「キーボード」 - 「Ctrl + Alt + Del キー入力」をクリックします。



## (2) x5 モデル以前の場合

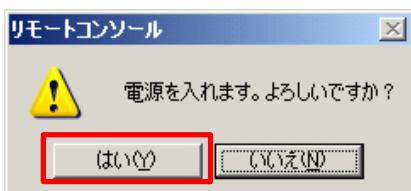
- 1 サーバブレードの電源を ON します。リモートコンソール ツールバーの [電源▼] をクリックします。



- 2 [電源オン] をクリックします。



- 3 [はい (Y)] をクリックします。サーバブレードが起動します。



- 4 リモートコンソールツールバーのタイトル表記が、[電源 OFF] から [電源 ON] に変わり、サーバブレードが起動したことを確認できます。



### 補足

- リモートコンソール ツールバーのタイトル表記 \*\*\* には、ログイン中のサーバブレードのニックネーム（ニックネームを設定している場合）、および IP アドレスが表示されます。
- Windows プレインストールモデルのサーバブレードでは、サーバブレードを初めて起動した場合、[Windows セットアップウィザード] 画面が表示されます。詳細は『セットアップガイド Windows 編』を参照し、Windows をセットアップしてください。

- 5 Windows のセットアップ後、次の画面になりましたら、リモートコンソールツールバーの [ C+A+D ] をクリックします。



サーバブレードの画面

- 6 リモートコンソールツールバーの [リモート開始] をクリックします。ツールバーが消え、サーバブレード側のキーボード／マウス操作ができるようになります。Administrator の [パスワード] を入力後、[→] をクリックし、Windows にログインします。



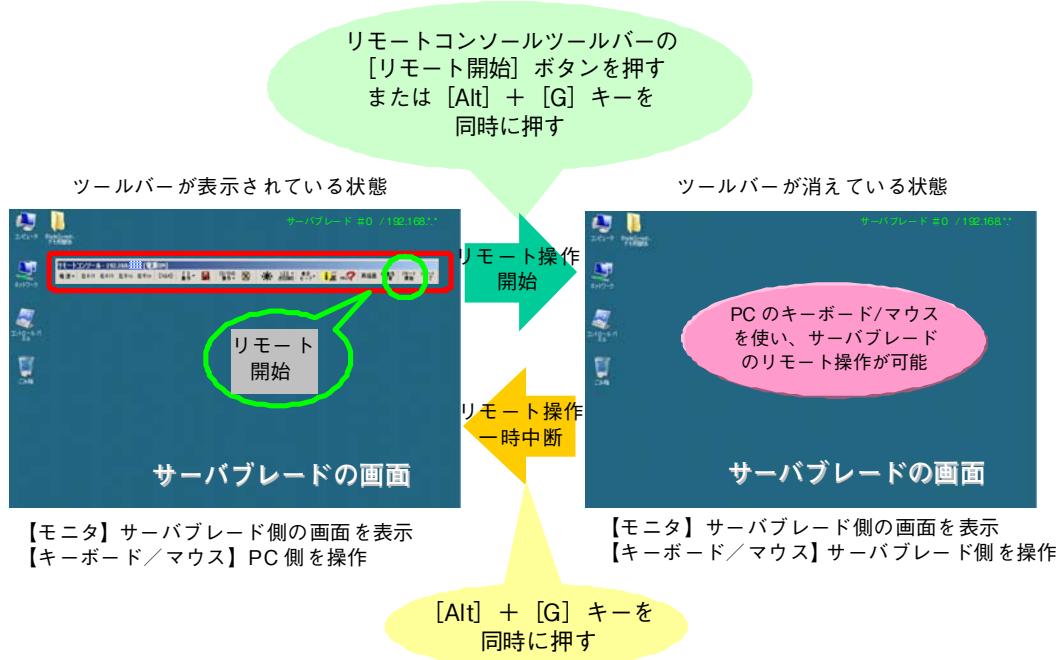
サーバブレードの画面

### 補足

リモートコンソールツールバー [リモート開始] をクリックし、ツールバーが消えている状態では、コンソール端末側のキーボード／マウスを使って、サーバブレード側のキーボード／マウス操作（リモート操作）ができます。

- 7 サーバブレードのリモート操作を一時中断し、リモートコンソールツールバーを再び表示させるには、[ Alt ] + [ G ] キーを同時に押します。

### ＜リモート操作の開始と一時中断＞



制限

リモート操作中は、キーボードに入力制限があるなど、いくつかの注意事項があります。また、リモート操作を一定時間中断すると、リモートコンソール アプリケーションが自動終了します。詳細は『BS320 用リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。

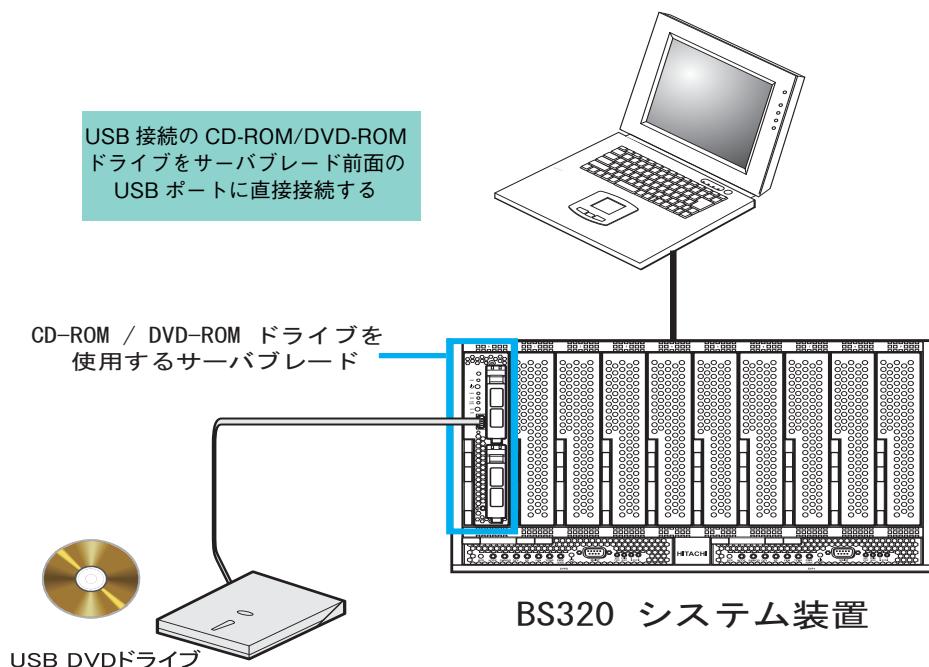
## 補足

リモートコンソール ツールバーの詳細な操作方法は、「[付録 B リモートコンソールツールバー](#)」[P.48](#) および『[BS320 用リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド](#)』を参照してください。

## 3.4 CD/DVD ドライブの利用

各サーバブレードで CD-ROM/DVD-ROM ドライブを使用する方法は、次の 3 通りの方法があります。

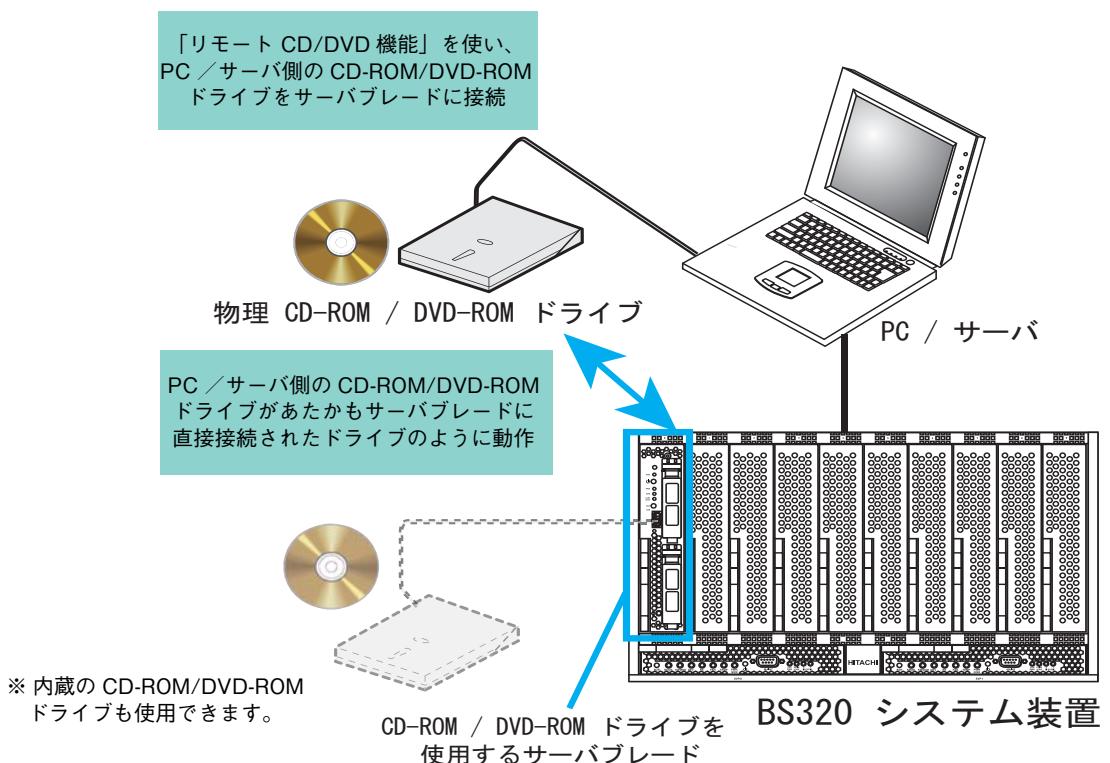
### (1) サーバブレード前面の USB ポートに、CD-ROM/DVD-ROM ドライブを直接 USB 接続する方法



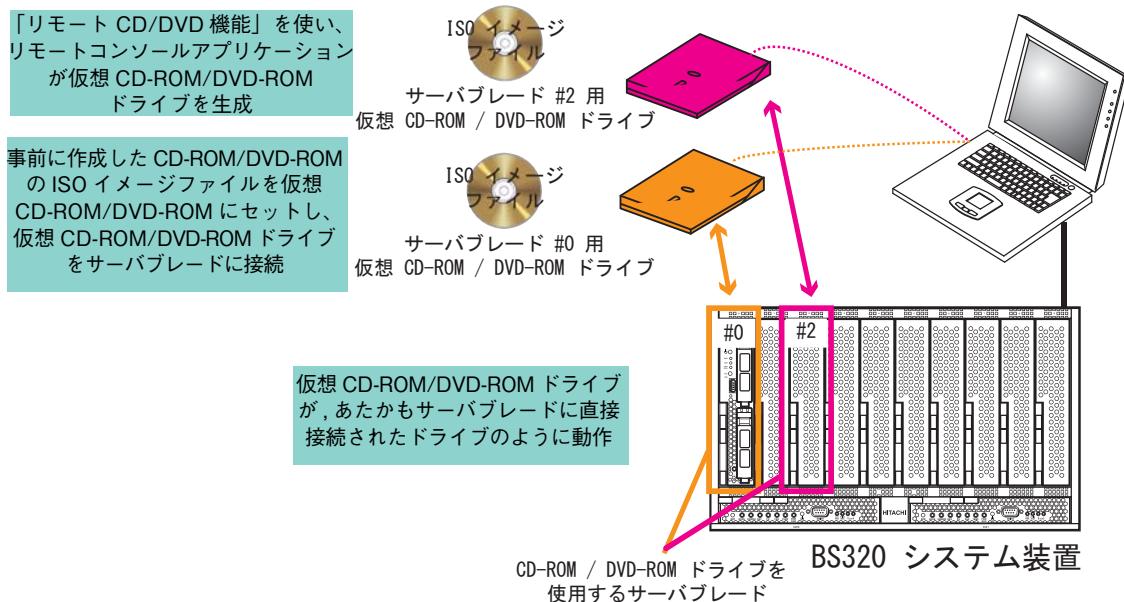
#### 補足

DVD-ROM ドライブ GV-FV8200 は、USB ポートを 2 つ占有します。このため、本 DVD-ROM ドライブの接続には、サーバブレードが 2 台必要となります。DVD-ROM ドライブを使用するサーバブレードには、灰色の USB ケーブルを接続してください。また、黒色の USB ケーブルは、電力供給のみの目的で使用するため、その他のサーバブレードの空いている USB ポートに接続してください。

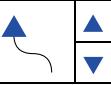
(2) リモートコンソールの「リモート CD / DVD 機能」を使い、コンソール端末に接続された物理 CD-ROM / DVD-ROM ドライブをあたかもサーバブレードに直接接続されたドライブのように使用する方法



### (3) リモートコンソールの「リモート CD / DVD 機能」を使い、リモートコンソールアプリケーションが仮想的に生成した仮想 CD-ROM / DVD-ROM ドライブをあたかもサーバブレードに直接接続されたドライブのように使用する方法

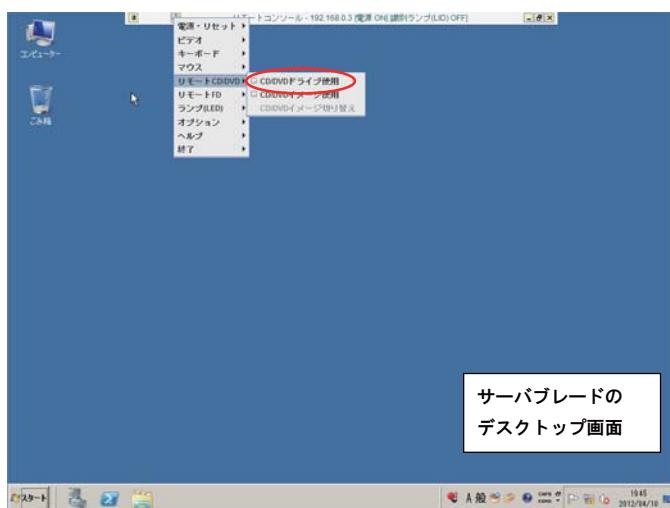


ここでは、「(2) リモートコンソールの「リモート CD / DVD 機能」を使い、コンソール端末に接続された物理 CD-ROM / DVD-ROM ドライブをあたかもサーバブレードに直接接続されたドライブのように使用する方法」による操作手順について説明します。



## x6 モデルの場合

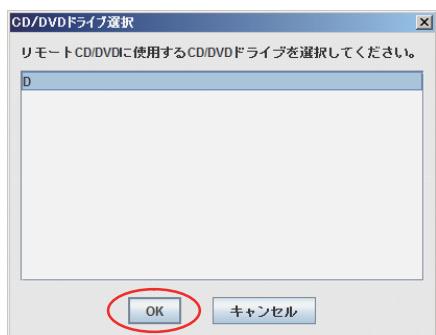
- 1 メニューから「リモート CD / DVD」を選択し、「CD / DVD ドライブ使用」をクリックします。



- 2 CD / DVD ドライブ選択画面が表示されます。

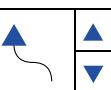
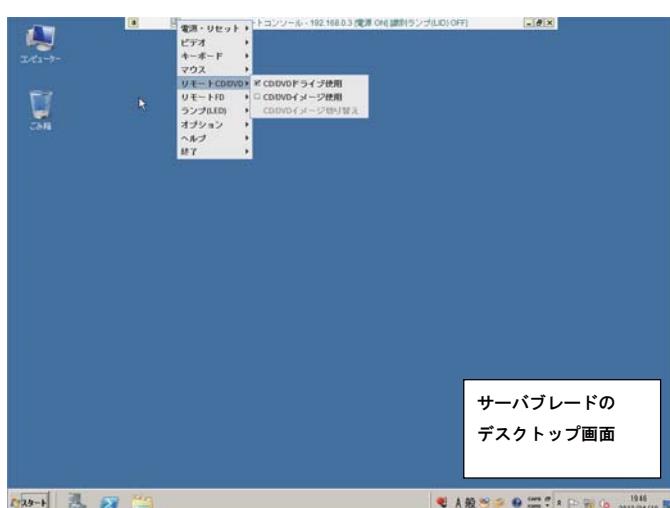
コンソール端末で使用している CD / DVD ドライブを選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

コンソール端末の CD / DVD ドライブから、メディアを取り出した状態でドライブ選択を行ってください。



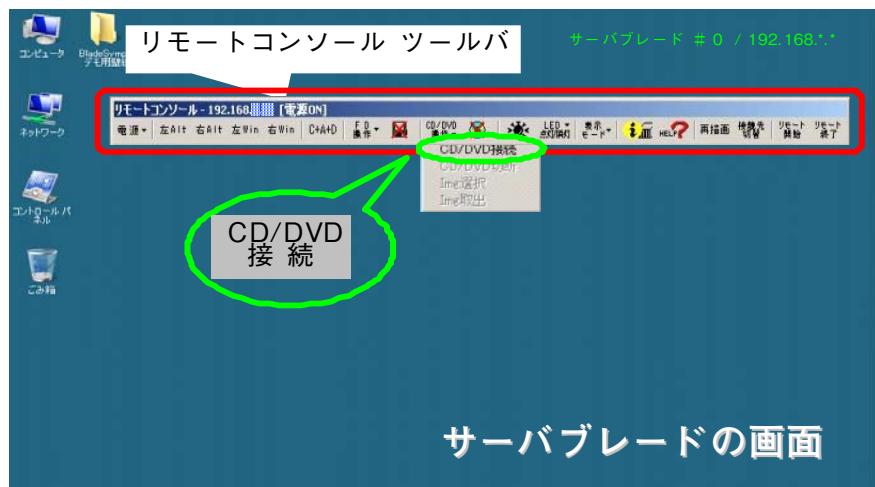
- 3 コンソール端末に搭載、または接続されている CD / DVD ドライブがリモート CD / DVD としてサーバブレードに接続されます。

メディアをドライブに挿入して使用してください。

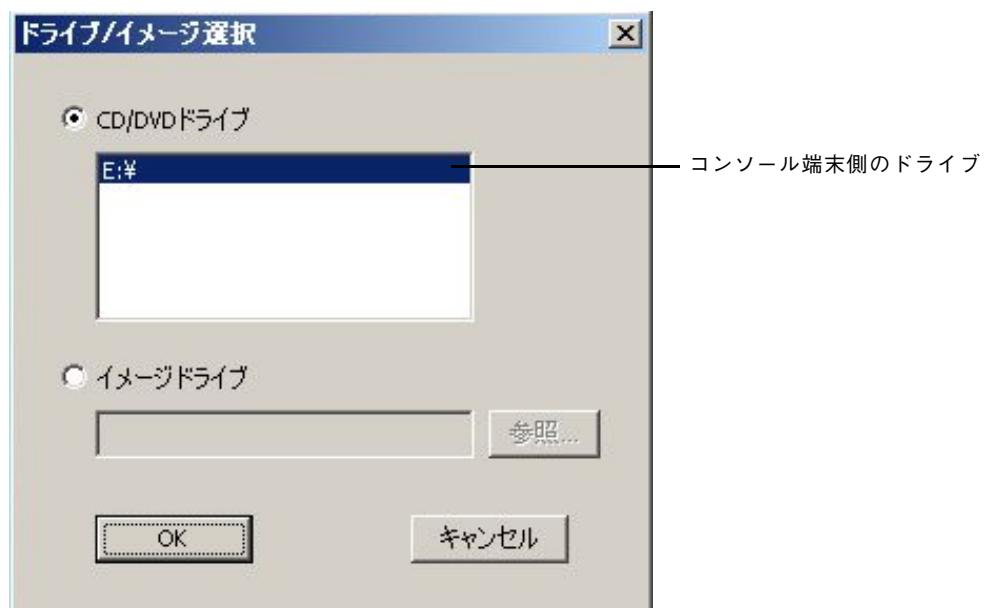


## x5 モデル以前の場合

- 1 コンソール端末側の CD-ROM / DVD-ROM ドライブに、CD / DVD メディアが入っていないことを確認します。
- 2 「3.2 リモート操作の開始と終了」 P.16 を参考にして、CD-ROM / DVD-ROM ドライブを使用するサーバブレードのリモートコンソールにログインし、リモートコンソールツールバーを表示させます。
- 3 リモートコンソールツールバー [CD / DVD 操作] のメニューから [CD/DVD 接続] を選択します。



- 4 「ドライブ選択」で、サーバブレードに接続するコンソール端末側の CD-ROM / DVD-ROM ドライブを選択し、[OK] をクリックします。



## 補足

## ■ 「CD / DVD ドライブ」を選択した場合：

コンソール端末に内蔵もしくは USB 接続した実 CD / DVD ドライブを、サーバーブレード側にリモート接続します。コンソール端末側の CD / DVD ドライブに実 CD/DVD メディアをセットすることで、CD / DVD メディアがサーバーブレード側に認識されます。

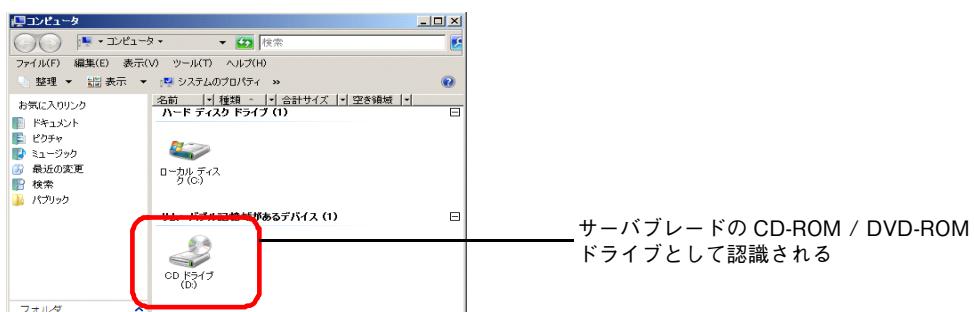
## ■ 「イメージドライブ」を選択した場合：

リモートコンソールアプリケーション上で、仮想的な CD / DVD ドライブを生成し、サーバーブレードにリモート接続します。このため、コンソール端末に内蔵もしくは USB 接続した実 CD / DVD ドライブは必要ありません。

なお、CD / DVD メディア内のデータは、ISO イメージファイルとしてコンソール端末上に保存する必要があります。リモートコンソールアプリケーション上で生成した仮想的な CD / DVD ドライブに、イメージファイルをセットすることで、CD / DVD メディアがサーバーブレード側に認識されたように動作します。

- 5 これで、コンソール端末側の CD-ROM / DVD-ROM ドライブを、あたかもサーバーブレードのドライブとして使用することができます。

＜サーバーブレード側（Windows）の表示例＞



- 6 リモート CD / DVD 機能を終了し、サーバーブレードから CD-ROM / DVD-ROM ドライブを切り離すには、リモートコンソールツールバーの [CD/DVD 操作] のメニューから [CD / DVD 切断] を選択します。



## 補足

■ リモート CD / DVD 機能の詳細や注意事項は、『BS320 用 リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。

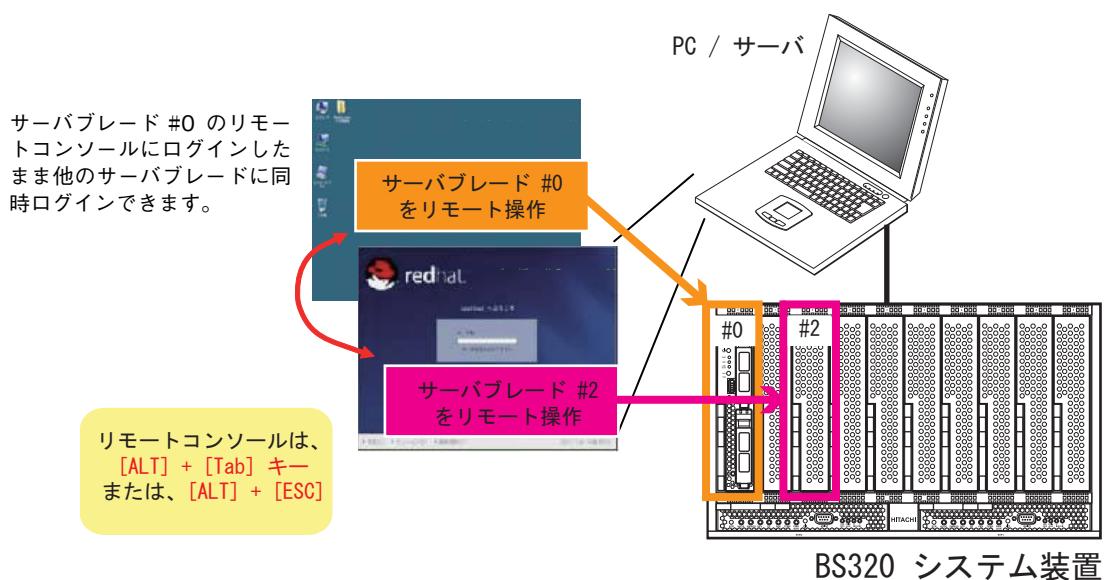
■ リモート FD 機能を使用する場合は、『BS320 用 リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。

## 3.5 操作対象のサーバブレードの切り替え

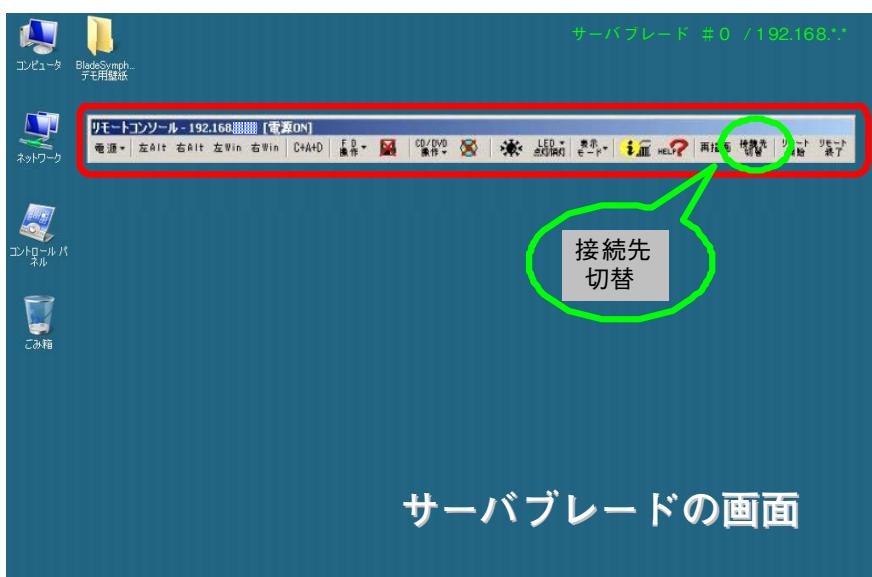
1台のコンソール端末から複数のサーバブレードのリモートコンソールに、同時ログインできます。  
 また、同時ログイン中のリモートコンソールは、[Alt] + [Tab] キー、または [Alt] + [ESC] キーを押すことで、高速に切り替えることができます。

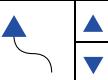
なお、x6 モデルはサポートしていません。

<リモートコンソールの切り替えイメージ>

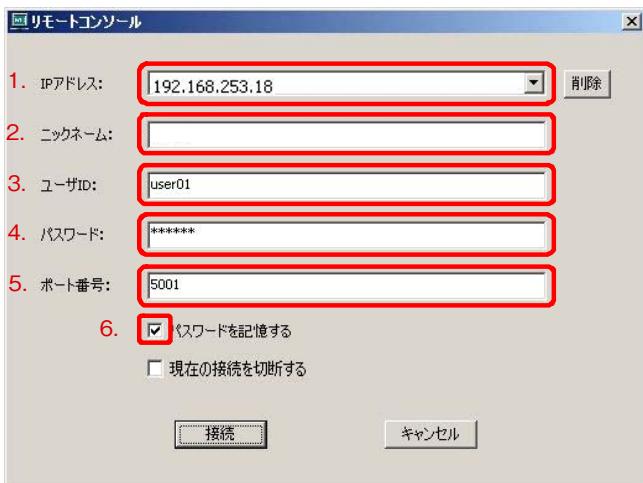


- 1 [Alt] + [G] キーを同時に押し、リモートコンソールツールバーを表示します。
- 2 リモートコンソールツールバー [接続先切替] をクリックします。





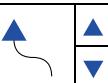
- 3 リモートコンソールのログイン画面が表示されます。リモート操作する他のサーバブレードのログイン情報を入力し、[接続] をクリックしてください。なお、ログイン情報は、「3.2.2 リモートコンソールのログイン」手順 1 P.19 を参照してください。

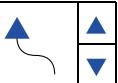
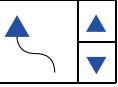


### … 補足

- 1. [IP アドレス] 欄の右端にある [▼] をクリックすると、一度リモートコンソールのログインに成功したサーバブレードのニックネーム（ニックネームを設定した場合）、IP アドレス一覧が表示されます。この一覧からリモート操作するサーバブレードを選択することで、前回のログイン情報が自動表示されます。
- 各サーバブレード前面の USB ポートに直接接続した CD-ROM / DVD-ROM ドライブや、[3.4 CD/DVD ドライブの利用] P.28 のリモート CD/DVD 機能を使用して OS やアプリケーションをインストールしている場合、接続先のサーバブレードを切り替えるとインストールは継続します。
- 6. [現在の接続を切断する] にチェック「レ」をつけて [接続] をクリックした場合は、現在ログインしているサーバブレードのリモート接続を自動的に切断（ログオフ）し、他のサーバブレードにログインします。

- 4 同時ログイン中の他サーバブレードに、コンソールを戻す場合は、[ Alt ] + [ Tab ] キー、または [ Alt ] + [ ESC ] キーを適当回数同時に押し、コンソールを切り替えてください。





# 4 マネジメントモジュールの 基本操作

---

この章では、マネジメントモジュールの基本操作について説明します。

- 4.1 ログイン
- 4.2 ログアウト
- 4.3 サーバブレードの状態確認

## 4.1 ログイン

コンソール端末上で Internet Explorer を起動し、Web コンソールにログインします。

- 1 コンソール端末上で Internet Explorer を起動します。

### 補足

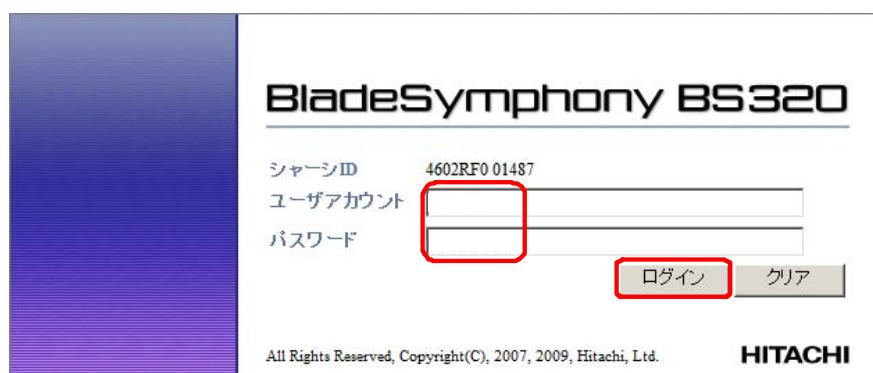
- Internet Explorer 6.0 以上をお使いください。
- Windows 8 の場合は、デスクトップ版 Internet Explorer に限ります。

- 2 [アドレス] 欄に 「http://192.168.0.1」 と入力し、[ Enter ] キーを押します。



- 3 SVP Web コンソールへの接続に成功すると、ログイン画面が表示されます。  
[ログイン] をクリックします。

工場出荷時、ユーザアカウントは何も設定されていませんので、「ユーザアカウント」、「パスワード」には何も入力する必要はありません。

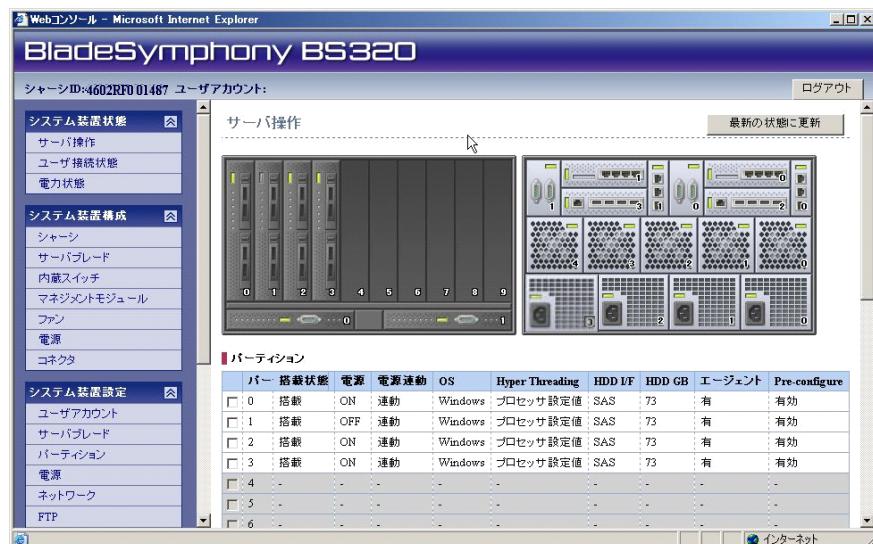


## 補足

SVP Web コンソールに接続できない場合は、次のことを確認してください。

1. Internet Explorer の [ツール] – [インターネットオプション] をクリックし、[セキュリティ] タブの [レベルのカスタマイズ] をクリックします。「セキュリティの設定」画面で、「Java アプレットのスクリプト」を「有効にする」に設定してください。  
また、「ポップアップ ブロックの使用」を「無効にする」に設定してください。
2. Internet Explorer の [ツール] – [インターネットオプション] をクリックし、[接続] タブの [LAN の設定] をクリックします。「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」画面で、「LAN にプロキシサーバーを使用する …」のチェックボックスのチェック「レ」を外してください。
3. Internet Explorer のセキュリティ強化の構成によって、ブロックされている可能性があります。Internet Explorer の [ツール] – [インターネットオプション] をクリックし、[セキュリティ] タブの [信頼済みサイト] のアイコンをクリックし、「サイト」をクリックします。「信頼済みサイト」画面で、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする」のチェックをはずし、「次の Web サイトをゾーンに追加する」欄に SVP の IP アドレスを入力して、[追加] をクリックしてください。
4. Internet Explorer 8 以降の場合は、互換表示を有効にする必要があります。  
[ツール] – [互換表示設定] をクリックします。  
[追加する Web サイト] に接続するマネジメントモジュールの IP アドレスを入力し、[追加] ボタンを押します。  
[互換表示に追加した Web サイト] に追加されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

## 4 SVP Web コンソールのメイン画面が表示されます。

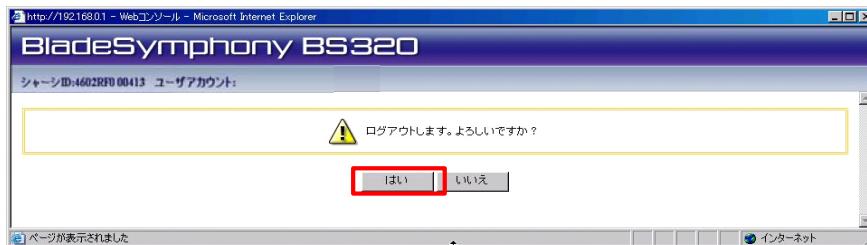


## 4.2 ログアウト

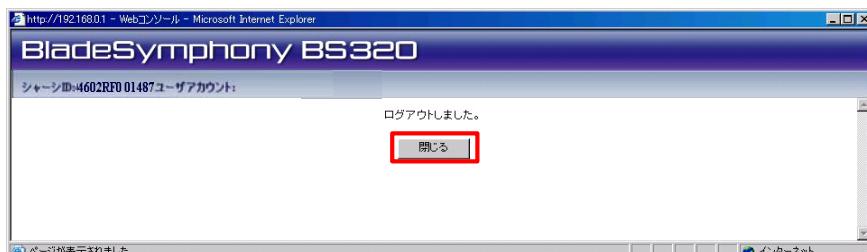
- SVP Web コンソールの操作を終了します。  
画面右上の [ログアウト] をクリックします。



- [はい] をクリックします。



- [閉じる] をクリックします。



## 4.3 サーバブレードの状態確認

サーバの現在の状態の表示・サーバに対する操作を行うことができます。

### (1) サーバ状態表示・操作画面

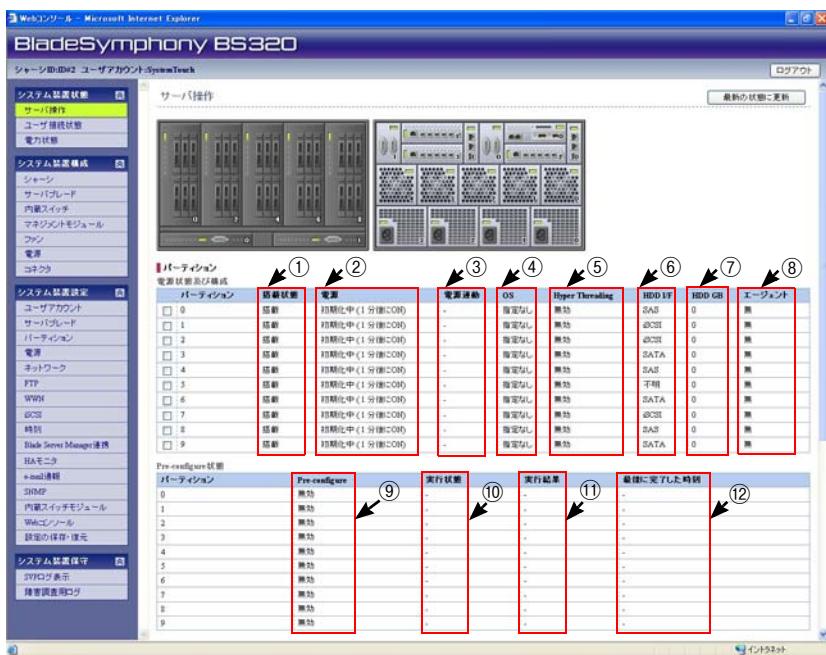
**補足**

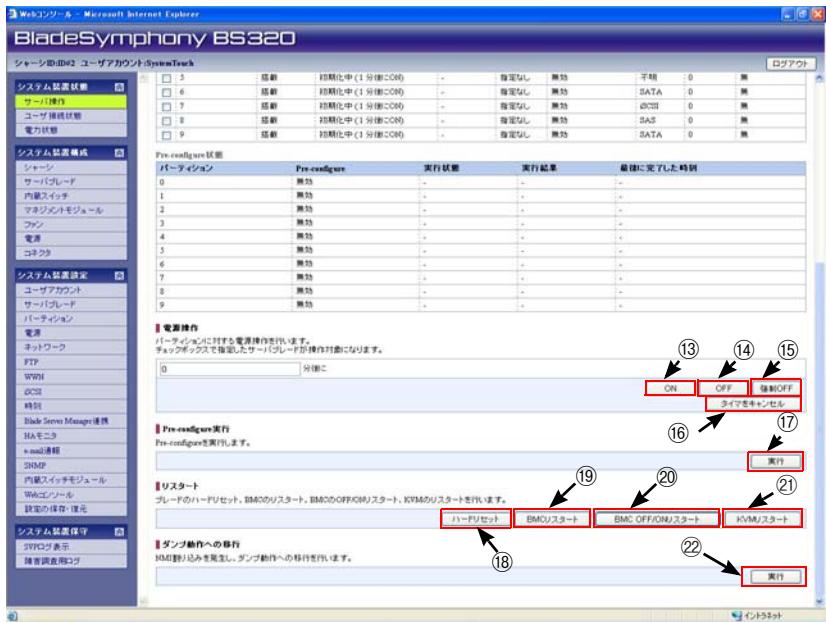
ファームウェアのバージョンにより、画面表示や設定項目詳細が異なります。  
(該当部分に (A1001 ~ A1035 の場合) などと表示しています)

ご使用中のファームウェアバージョンは「FV コマンド」を実行して確認してください。  
次のバージョンをお使いの場合は、該当するバージョンをクリックしてください。  
該当バージョンへジャンプします。

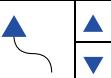
<A1001 ~ A1052>

サーバの状態表示・操作を行う画面です。





#	項目名	説明
①	搭載状態	サーバブレードの搭載 / 非搭載を表示します。
②	電源	電源状態を表示します。遅延設定を設定している場合は残り時間も表示します。
③	電源運動	フロントパネルのボタンおよびAC入力との電源運動について表示します。
④	OS	OS種別を表示します。
⑤	Hyper Threading	Hyper Threadingを無効にする / しないを表示します。
⑥	HDD I/F	HDDのインターフェースを表示します。
⑦	HDD GB	HDDの容量を表示します。
⑧	エージェント	Blade Server Managerエージェントのインストール有無を表示します。
⑨	Pre-configure	N+M Cold Standbyの有効 / 無効を表示します。
⑩	Pre-configure 実行状態	Pre-configure実行状態を表示します。
⑪	Pre-configure 実行結果	Pre-configure実行結果の完了 / 未完了を表示します。
⑫	Pre-configure の最後に成功した時間	Pre-configureが最後に成功した時刻を表示します。
⑬	電源操作（個別）[ON] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して電源ONを行います。
⑭	電源操作（個別）[OFF] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して電源OFFを行います。
⑮	電源操作（個別）[強制OFF] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して強制電源OFFを行います。
⑯	電源操作（個別）[タイムキャンセル] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して遅延設定をキャンセルします。
⑰	Pre-configure 実行 [実行] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対してPre-configureを行います。
⑱	リスタート [ハードリセット] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対してハードリセットを行います。
⑲	リスタート [BMCリスタート] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対してBMCのリスタートを行います。
⑳	リスタート [BMC OFF/ON リスタート] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対してBMCのOFF/ONリスタートを行います。



#	項目名	説明
㉑	リスタート [KVM リスタート] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して KVM のリスタートを行います。
㉒	ダンプ操作への移行 [実行] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して、NMI 割り込みによるダンプ操作への移行を行います。

## (A1001 ~ A1052 の場合)

サーバの状態表示・操作を行う画面です。

BladeSymphony BS320

シャーシID:SalvDog4 ユーザーアカウント:admin

ログアウト

最新の状態に更新

サーバ操作

システム装置状態

サーバ操作

ユーザ操作状態

電源状態

システム装置構成

シャーシ

サーバブレード

内部スイッチ

マジックモジュール

ファン

電源

コネクタ

システム装置設定

ユーザアカウント

サーバブレード

パーティション

電源

ネットワーク

FTP

WWN

SCSI

RAID

Blade Server Manager

RAモニタ

emulex

SMB

内部スイッチモジュール

Webコンソール

設定の保存/復元

バーティション

電源

電源運動

OS

Hyper Threading

HDD MT

HDD GR

ページ

Pre-configure

電源操作

バーティションに対する電源操作を行います。  
チェックボックスで指定したサーバブレードが動作対象になります。

ページが表示されました

BladeSymphony BS320

シャーシID:SalvDog4 ユーザーアカウント:admin

ログアウト

最新の状態に更新

サーバ操作

システム装置状態

サーバ操作

ユーザ操作状態

電源状態

システム装置構成

シャーシ

サーバブレード

内部スイッチ

マジックモジュール

ファン

電源

コネクタ

システム装置設定

ユーザアカウント

サーバブレード

パーティション

電源

ネットワーク

FTP

WWN

SCSI

RAID

Blade Server Manager

RAモニタ

emulex

SMB

内部スイッチモジュール

Webコンソール

設定の保存/復元

バーティション

電源

電源運動

OS

Hyper Threading

HDD MT

HDD GR

ページ

Pre-configure

電源操作

バーティションに対する電源操作を行います。  
チェックボックスで指定したサーバブレードが動作対象になります。

ページが表示されました

ON

OFF

強制OFF

ライフモニタ

Pre-configure実行

Pre-configureを実行します。

実行

リスタート

フレードのリセット、RMCリスタート、BMC OFF/ONリスタート、KVMリスタートを行います。

ハードリセット

BMCリスタート

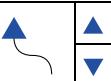
BMC OFF/ONリスタート

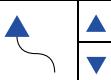
KVMリスタート

ダンプ操作への移行

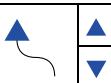
NMI割り込みを発生し、ダンプ操作への移行を行います。

実行





#	項目名	説明
①	搭載状態	サーバーブレードの搭載 / 非搭載を表示します。
②	電源	電源状態を表示します。遅延設定を設定している場合は残り時間も表示します。
③	電源運動	フロントパネルのボタンおよびAC入力との電源運動について表示します。
④	OS	OS 種別を表示します。
⑤	Hyper Threading	Hyper Threading を無効にする / しないを表示します。
⑥	HDD I/F	HDD のインターフェースを表示します。
⑦	HDD GB	HDD の容量を表示します。
⑧	エージェント	Blade Server Manager エージェントのインストール有無を表示します。
⑨	Pre-configure	N+M Cold Standby の有効 / 無効を表示します。
⑩	電源操作 (個別) [ON] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して電源ONを行います。
⑪	電源操作 (個別) [OFF] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して電源 OFFを行います。
⑫	電源操作 (個別) [強制 OFF] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して強制電源 OFFを行います。
⑬	電源操作 (個別) [タイマキャンセル] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して遅延設定をキャンセルします。
⑭	Pre-configure 実行 [実行] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して Pre-configureを行います。
⑮	リスタート [ハードリセット] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対してハードリセットを行います。
⑯	リスタート [BMC リスタート] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して BMC のリスタートを行います。
⑰	リスタート [BMC OFF/ON リスタート] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して BMC の OFF/ON リスタートを行います。
⑱	リスタート [KVM リスタート] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して KVM のリスタートを行います。
⑲	ダンプ操作への移行 [実行] ボタン	チェックボックスで選択したパーティションに対して、NMI 割り込みによるダンプ操作への移行を行います。



# 付録

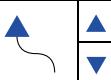
---

[付録 A リモートコンソール注意事項](#)

[付録 B リモートコンソールツールバー](#)

[付録 C ショートカットキー](#)

[付録 D カスタマイズ](#)



# 付録 A リモートコンソール注意事項

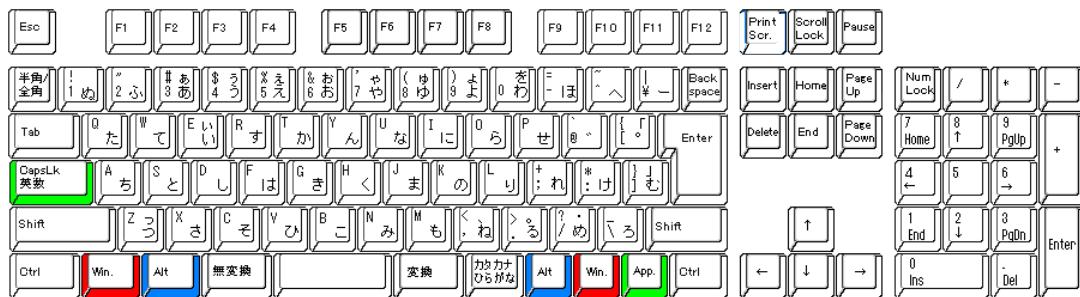
リモートコンソールを使用する上での注意事項を説明しています。

また、次に記載している内容以外の注意事項は『BS320 用リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。

## 付録 A.1 リモート操作中のキーボード入力制限

サーバブレードのリモート操作中、いくつかのキーには制限があります。

109 キーボードでは、次の図に記載のキーに制限があります。



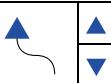
□ … サーバブレード側のキーとして使用できません。リモート操作中も、常に PC 側のキーとして動作します。

□ … サーバブレードのリモート操作中、本来のキーとして使用できません。

□ … サーバブレードのリモート操作中は、使用できません。

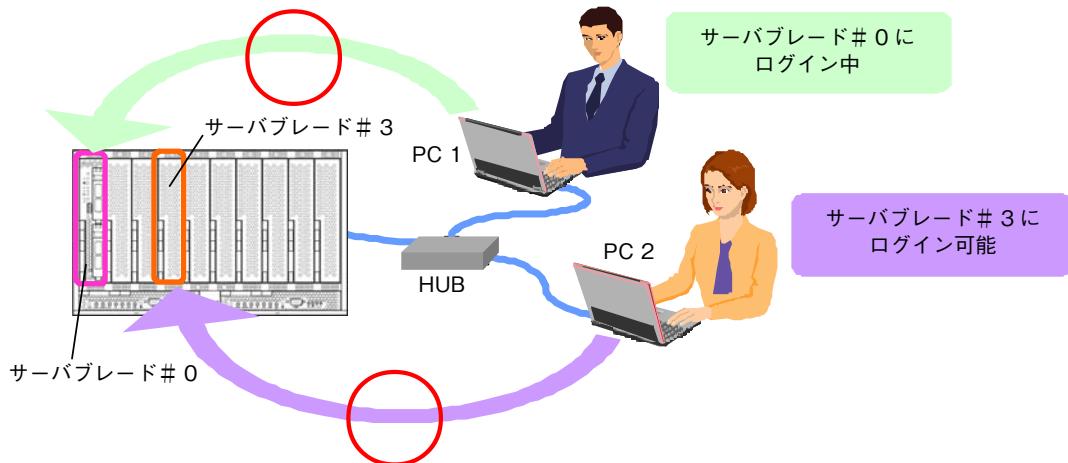
リモート操作中、制限があるキーの詳細事項、代替入力方法について説明します。

制限があるキー	制限の詳細事項	代替入力方法
[ろ] キー (x6 モデルの場合)	かな入力時に、[ろ] キー押下で「ろ」「口」を入力することができません。	[Shift] + [ろ] キーにより「ろ」「口」を入力することができます。
[左 Alt] キー [右 Alt] キー	[Alt] キーは、常にコンソール端末側のキーとして動作します。リモート操作中でも、サーバブレード側の [Alt] キーとして使用できません。[Alt] キーは、リモートコンソールのショートカットキーとして使用します。	リモートコンソールツールバーの [右 Alt] [左 Alt] ボタンを押してください。または「付録 C ショートカットキー」P.52 のショートカットキーを押してください。
[CapsLock] キー	<p>x6 モデルの場合 サーバ OS が Linux の場合、[CapsLock] キー押下後、[Shift] + [CapsLock] キーが数秒毎に繰り返し入力される場合があります。</p> <p>x5 モデル以前の場合 リモート操作中、[CapsLock] キーは、単独では使用できません。 [Shift] + [CapsLock] キーを押したときのみ動作します。</p>	<p>大文字/小文字の切替には [Shift] + [CapsLock] キーを用いてください。 [Shift] + [CapsLock] キーが繰り返し入力される現象は、もう一度 [CapsLock] キーを押下すると解消します。</p> <p>マウスで IME ツールバーを操作してください。</p>
[Application] キー	リモート操作中、[App.] キーは動作しません。	マウスの右ボタンをクリックしてください。
[左 Windows] キー [右 Windows] キー	リモート操作中は、使用できません。 [Windows] キーを押した場合、キーが押されたままの状態となります。誤って押した場合は、リモートコンソール アプリケーションを一旦終了し、再起動してください。	リモートコンソール ツールバーの [右 Win] [左 Win] を押してください。または「付録 C ショートカットキー」P.52 のショートカットキーを押してください。

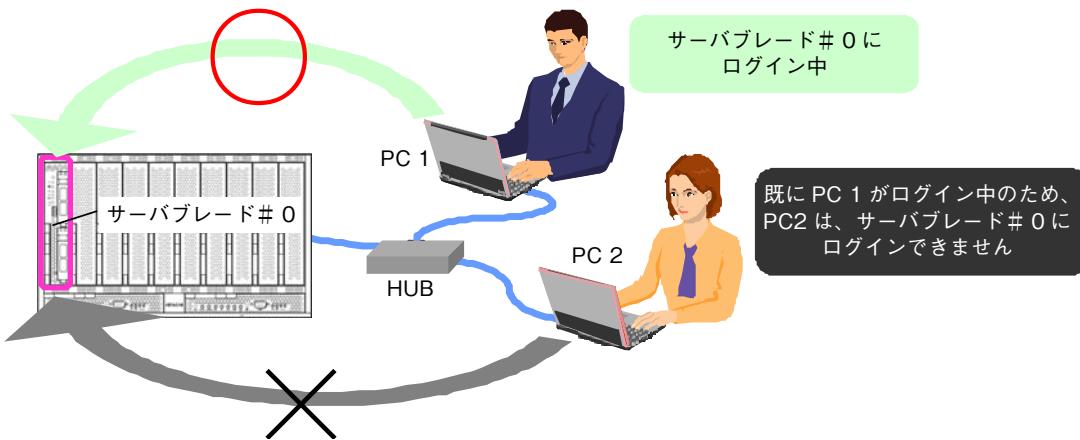


## 付録 A.2 複数コンソール端末からのリモート操作

- 1 複数のコンソール端末から、それぞれ別のサーバブレードに、同時にログインできます。

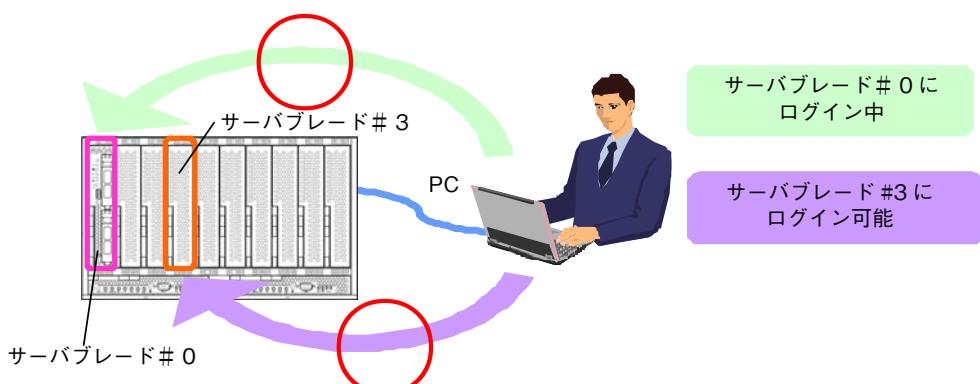


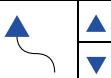
- 2 複数のコンソール端末から同じサーバブレードには、同時にログインできません。



- 3 1台のコンソール端末から複数のサーバブレードに、同時ログインできます。

なお、同時ログイン中のリモートコンソールは、[ Alt ] + [ Tab ] キー、または [ Alt ] + [ ESC ] キーを適当回数同時に押すことで、高速にコンソール画面を切り替えることができます。



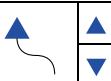


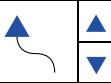
# 付録 B リモートコンソールツールバー

リモートコンソールツールバーの各メニューについて説明します。

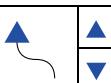
## ■ x6 モデル

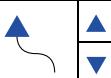
メニュー	動作詳細	
電源・リセット	電源オン	接続されているサーバブレードに対して、電源 ON を実行します。 ボタンを押すと確認メッセージが表示されます。
	強制電源オフ	接続されているサーバブレードに対して、強制的に電源 OFF を実行します。 ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。
	リセット	接続されているサーバブレードに対して、リセットを実行します。 ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。
	NMI	接続されているサーバブレードに対して、NMI を実行し、ダンプモードに移行します。 障害時以外は使用しないでください。 ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。
ビデオ	再描画	リモートスクリーンを再描画し、サーバブレードの最新のビデオ画面を表示します。
	フルスクリーン表示	フルスクリーンモードとウィンドウ表示モードの切替を行います。
キーボード	[ 左 Alt ] キー押下	[ 左 Alt ] キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまで [ Alt ] キーが押されたままの状態となります。
	[ 右 Alt ] キー押下	[ 右 Alt ] キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまで [ Alt ] キーが押されたままの状態となります。
	[ 左 Windows ] キー押下	[ 左 Windows ] キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまで [ Windows ] キーが押されたままの状態となります。
	[ 右 Windows ] キー押下	[ 右 Windows ] キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまで [ Windows ] キーが押されたままの状態となります。
	[ Ctrl ] + [ Alt ] + [ Del ]	[ Ctrl ] + [ Alt ] + [ Del ] キーを入力します。 ボタンを押すと確認メッセージが表示されます。
マウス	カーソル非表示	コンソール端末のマウスカーソルを非表示にします。 マウスカーソルを再び表示させるには [ Alt ] + [ G ] キーを使用してください。
リモート CD / DVD	CD / DVD ドライブ使用	CD / DVD ドライブを選択するためのダイアログを表示します。 CD / DVD ドライブが選択されるとリモート CD / DVD が開始されます。 リモート CD / DVD の実行中に本項目が選択されると、リモート CD / DVD が終了されます。
	CD / DVD イメージ使用	CD / DVD イメージファイルを選択するためのダイアログを表示します。 CD / DVD イメージファイルが選択されるとリモート CD / DVD が開始されます。 リモート CD / DVD の実行中に本項目が選択されると、リモート CD / DVD が終了されます。
	CD / DVD イメージ切替	リモート CD / DVD に使用される CD / DVD イメージファイルを切り替えます。 本項目は、CD / DVD イメージファイルを用いてリモート CD / DVD が開始されると有効になります。 本項目が使用されると、仮想 CD/DVD ドライブ内のメディアが入れ替えられます。
リモート FD	FD ドライブ使用	FD ドライブを選択するためのダイアログを表示します。 FD ドライブが選択されるとリモート FD が開始されます。 リモート FD の実行中に本項目が選択されると、リモート FD が終了されます。
	FD イメージ使用	FD イメージファイルを選択するためのダイアログを表示します。 FD イメージファイルが選択されるとリモート FD が開始されます。 リモート FD の実行中に本項目が選択されると、リモート FD が終了されます。





メニュー		動作詳細
ランプ (LED) 点灯	識別ランプ (LID) 点灯	サーバブレード識別ランプを点灯します。
	識別ランプ (LID) 消灯	サーバブレード識別ランプを消灯します。
オプション	自動ログアウト 無効	キーボード、マウス操作が一定以上なかった場合、自動的にログアウトする機能です。 チェックありの場合、自動ログアウト機能を無効にします。
	日本語キーボード 使用	チェックありの場合、日本語キーボードに対応した入力モードになります。 日本語キーボードを使用する場合は本メニューを選択してください。
ヘルプ	ショートカット キー一覧	リモートコンソールで支援しているショートカットキーの一覧を表示します。
	バージョン情報	x6 モデル以降の場合、サーバブレードのファームウェアバージョン情報を表示します。
終了	終了	リモートコンソールを終了します。

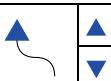


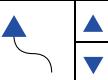


## ■ x5 モデル以前



メニュー		動作詳細
<Blade0>192.168.253.18 [電源 OFF]		タイトルバーには、リモートコンソール ログイン中のニックネーム（ニックネームを設定している場合）、IP アドレスおよび電源ステータスを表示します。
<Blade0>192.168.253.18 [電源 ON]		
電源		
電源オン		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を入れます。
強制電源オフ		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を強制オフします。
リセット		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードをリセットします。
NMI		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードに対して、NMI（Non-maskable Interrupt）を実行し、強制的にメモリダンプを取得します。システム障害時以外は、使用しないでください。
左 Alt		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードで、左 [ Alt ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
右 Alt		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードで、右 [ Alt ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
左 Win		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードで、左 [ Windows ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
右 Win		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードで、右 [ Windows ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
C+A+D		リモートコンソール ログイン中のサーバブレードで、左 [ Ctrl ] + 左 [ Alt ] + [ DEL ] キーを 1 回押した状態になります。
FD 操作		
FD 開始		リモート FD 機能を開始します。
FD 終了		リモート FD 機能を終了します。
Img 選択		リモート FD ドライブで使用する FD イメージデータを選択します。
Img 取出		リモート FD ドライブで使用していた FD イメージデータを取り出します。
		サーバブレードの USB 端子に FD ドライブが接続されている状態を表すアイコンです。
		サーバブレードの USB 端子に FD ドライブが接続されていない状態を表すアイコンです。
		サーバブレードの USB 端子に FD ドライブが接続され、かつ FD ドライブに FD がマウントされている状態を表すアイコンです。
CD/DVD 操作		
CD/DVD 接続		リモート CD / DVD 機能を使用し、コンソール端末側の CD-ROM / DVD-ROM ドライブをサーバブレードにマウントします。
CD/DVD 切断		リモート CD / DVD 機能を使用し、コンソール端末側の CD-ROM / DVD-ROM ドライブをサーバブレードにアンマウントします。
Img 選択		リモート CD / DVD ドライブで使用するイメージデータを選択します。
Img 取出		リモート CD / DVD ドライブで使用していたイメージデータを取り出します。
		サーバブレードにコンソール端末の CD / DVD ドライブが接続された状態を表すアイコンです。
		サーバブレードに CD / DVD ドライブが接続されていない状態を表すアイコンです。
		サーバブレードにイメージファイル無しで CD / DVD ドライブが接続された状態を表すアイコンです。
		サーバブレードにイメージファイル有りで CD / DVD ドライブが接続された状態を表すアイコンです。
		サーバブレード識別ランプが点灯している状態を表すアイコンです。
		サーバブレード識別ランプが消灯している状態を表すアイコンです。

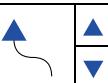
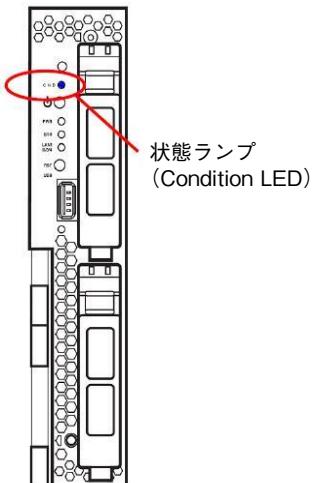


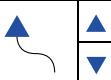


メニュー		動作詳細
		サーバブレード識別ランプが点滅している状態を表すアイコンです。
LED 消灯 / 点灯	点灯	サーバブレード識別ランプを点灯します。
	消灯	サーバブレード識別ランプを消灯します。
表示モード	フルカラー	リモートコンソールをフルカラーで表示します。
	減色	リモートコンソールを 4096 色 (RGB 各 4bit) で表示します。
	グレースケール	リモートコンソールを 256 階調で表示します。
		サーバブレードの装置情報 / リモートコンソールの機能情報を表示します。
		リモートコンソールで支援しているショートカットキー一覧を表示します。
再描画		リモートコンソールの画面表示を更新します。
接続先切替		ログイン画面を表示します。
リモート開始		リモート操作を開始します。
リモート終了		リモートコンソールを終了します。

### 補足

「サーバブレード識別ランプ」とは、次の図のとおり、サーバブレード前面のランプです。

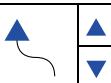




# 付録 C ショートカットキー

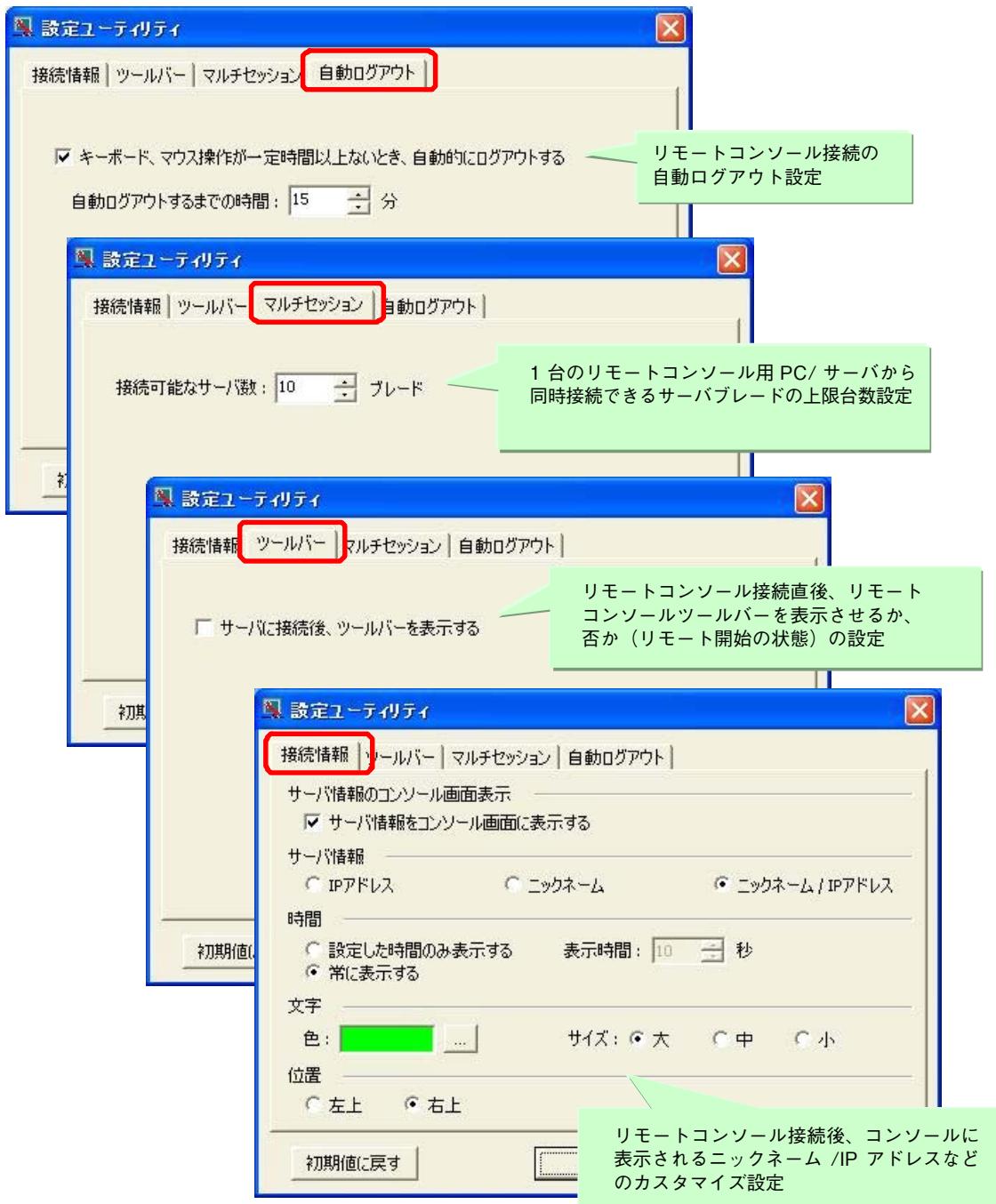
リモートコンソールツールバーのメニューは、ショートカットキーからも操作できます。

ショートカットキー	動作詳細
[ Alt ] + [ Z ] キー	リモートコンソールログイン中のサーバブレードで、左 [ Alt ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
[ Alt ] + [ M ] キー	リモートコンソールログイン中のサーバブレードで、右 [ Alt ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
[ Alt ] + [ X ] キー	リモートコンソールログイン中のサーバブレードで、左 [ Windows ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
[ Alt ] + [ N ] キー	リモートコンソールログイン中のサーバブレードで、右 [ Windows ] キーが押された状態になります。再度押すとキーを離した状態になります。
[ Alt ] + [ L ] キー	リモートコンソールログイン中のサーバブレードで、左 [ Ctrl ] + 左 [ Alt ] + [ Del ] キーを 1 回押した状態になります。
[ Alt ] + [ R ] キー (x6 モデルのみ有効)	リモートスクリーンを再描画し、サーバブレードの最新のビデオ画面を表示します。
[ Alt ] + [ W ] キー (x6 モデルのみ有効)	フルスクリーンモードとウィンドウ表示モードの切替を行います。
[ Alt ] + [ G ] キー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・x6 モデル以降の場合 コンソール端末のマウスカーソルについて表示／非表示の切替を行います。</li> <li>・x5 モデル以前の場合 ツールバーの表示／非表示の切替を行います。 ツールバーを表示している時は、キーボード、マウス操作はできません。</li> </ul>
[ Alt ] + [ T ] キー (x5 モデル以前のみ有効)	FD イメージファイルをサーバブレードに転送し、リモート FD を実行します。
[ Alt ] + [ C ] キー (x5 モデル以前のみ有効)	リモート FD を切断し、FD イメージファイルを消去します。
[ Alt ] + [ U ] キー (x5 モデル以前のみ有効)	リモート CD のドライブ / イメージ選択画面を表示します。
[ Alt ] + [ B ] キー (x5 モデル以前のみ有効)	リモート CD を切断します。
[ Alt ] + [ S ] キー (x5 モデル以前のみ有効)	サーバブレード識別ランプの消灯 / 点灯を切り替えます。
[ Alt ] + [ D ] キー (x5 モデル以前のみ有効)	ログイン画面を表示します。もう一度選択するとキャンセルされます。
[ Alt ] + [ E ] キー	リモートコンソールを終了します。



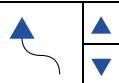
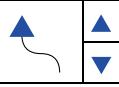
# 付録 D カスタマイズ

リモートコンソールアプリケーションの各種設定は、「設定ユーティリティ」からカスタマイズできます。



## 補足

「設定ユーティリティ」を起動する場合は、コンソール端末の [スタート] から [すべてのプログラム (P)] — [リモートコンソール] — [設定ユーティリティ] をクリックしてください。「設定ユーティリティ」の詳細は『BS320 用リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。



# セットアップガイド

## ～ 基本構成編 ～

2013年3月（第9版）

株式会社 日立製作所  
IT プラットフォーム事業本部  
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

無断転載を禁止します。

<http://www.hitachi.co.jp>